
埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第100集

亥ノ堀遺跡
諦光寺廃寺
鹿島遺跡（5次調査）

2008.3

深谷市教育委員会

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第100集

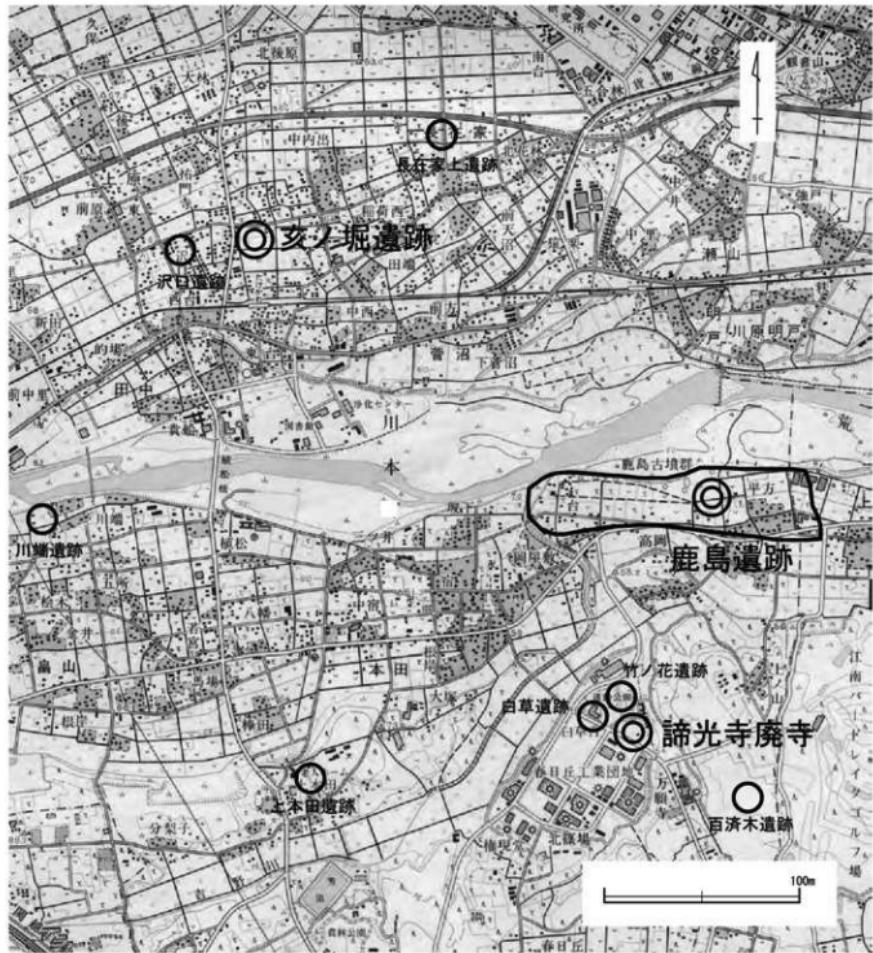
亥ノ堀遺跡
諦光寺廃寺
鹿島遺跡（5次調査）

2008.3

深谷市教育委員会

目 次

I. 玄ノ堀遺跡	1
II. 諦光寺廃寺	13
III. 鹿島遺跡 5次調査	25
写真図版	31



第1図 遺跡の位置と周辺の主な遺跡

例　　言

1. 本書は、旧川本町域で行われた亥ノ堀遺跡（川本地区No.173）、諦光寺廃寺（川本地区No.116）、鹿島遺跡5次調査（川本地区No.134）の発掘調査報告書である。各遺跡の発掘調査期間は以下のとおりである。

亥ノ堀遺跡	平成9年1月13日～3月31日
諦光寺廃寺	平成12年11月27日～平成13年1月19日
鹿島遺跡5次調査	A地区：平成7年10月3日～6日、B地区：平成8年3月1日～3月27日
2. 整理作業は、発掘調査後断続的に行っており、平成19年度に深谷市教育委員会が編集した。本書の編集・執筆は、村松篤が行った。
3. 各遺構については種類別に記載を行った。
4. 本書掲載の図については、遺構のスケールは原則として1/80、遺物のスケールは1/8とした。
5. 出土遺物の保管と詳細なデータは、深谷市川本出土文化財管理センターで管理する。
6. 本書の作成に際して、それぞれ下記の委託をおこなった。

亥ノ堀遺跡	遺物分布図作成（システム提案株式会社）、石器実測・土器実測写真撮影（シン技術コンサルタント株式会社）、自然科学分析（パリノサーベイ株式会社）、基準点測量・航空写真撮影・石器写真実測（株式会社東京航業研究所）
諦光寺廃寺	遺構分布図作成（システム提案株式会社）、石器写真実測（大成エンジニアリング株式会社）、基準点測量・集石土坑写真実測・航空写真撮影（株式会社東京航業研究所）
鹿島遺跡5次調査	基準点測量（東京航業研究所）
7. 遺構遺物の詳細情報については、深谷市遺跡情報データベースで公開している。
http://www.city.fukaya.saitama.jp/kawamoto_bunkazai/iseki_database.html
8. 発掘調査及び整理作業に従事した方は以下のとおりである。

整理作業参加者	大木良子、市川喜和子、笠原淑江、吉野みゆき（平成18年・19年度）
発掘調査参加者	（亥ノ堀遺跡）田代康宏、柴崎朝子、吉沢邦子、小久保花子、中村須磨子、神田みよ子、山田栄子、大沢利夫、小川春江、富田伴子、吉野昌代、佐々木幸三、宮原シズエ、中村典子、吉沢豊子、吉沢国治 （諦光寺廃寺）新井則一、大木良子、押切忠雄、笠原淑江、小島せつ子、富田貢、中川康子、中村須磨子、中村典子、肥留川千恵子、松本郁子、松本俊江、宮原シズエ、山田栄子、吉沢邦子 （鹿島遺跡5次調査）柴崎朝子、大木良子、吉沢邦子、小久保花子、中村須磨子、中村光子、持田千代子、大木文子、松本初江、松本有子

I. 亥ノ堀遺跡

1. 発掘調査にいたる経緯

平成8年10月31日に川本町長（町都市計画課）から長在家地内を中心に行われる武川中央土地区画整理事業予定地内における埋蔵文化財の所在についての照会があった。川本町教育委員会（以下町教委）は、開発区域の埋蔵文化財の所在を確認するために試掘調査を実施した後に再度協議を行うこととして、事前に平成8年11月5日から15日まで約12ヘクタールを対象として1600m²にわたり試掘調査を行った。その結果、区画整理事業予定地内北西隅において、縄文時代の包含層を主体とする「亥ノ堀遺跡（川本地区No.173）」が新発見された。そこで町教委は都市計画課に開発する際には記録保存のための発掘調査が必要であると回答した。本調査は、川本町遺跡調査会が川本町長小川重雄から委託を受け、平成9年1月13日～3月31日まで現地調査を行った。発掘届けは平成8年4月17日付け教文2-193号である。

2. 遺跡の位置（第1図）

亥ノ堀遺跡は、深谷市南部川本地域に所在し、櫛引台地南縁に位置する。東西方向に延びる微高地間に立地しており、南側に向かい緩やかな傾斜を見せる。遺跡の範囲は、東西100m、南北100mの楕円形の範囲に広がりを見せる。

周辺には、縄文時代中期の集落が点在しており、遺跡の西側500mには、縄文時代草創期を始源とし、縄文時代中期後半の集落が調査された沢口遺跡が位置し、また東700mには、縄文時代中期後半の包含層を主体とする長在家上遺跡が位置する。このように櫛引台地南縁では、東西方向に延びる微高地上から縄文時代前期から中期にかけての集落が点在することがわかりはじめている。

3. 遺構の概要（第2図）

調査区を東西に横断するように北流路と南流路が検出され、北流路の北側に当たる調査区北半から住居1軒、屋外埋甕炉1基、配石遺構1基、集石1基が検出された。また、南流路と北流路にはさまれた微高地上には中近世と考えられる長方形土坑が17基、溝1条が分布する。

4. 遺構（第3～5図、図版1～3）

a. 1号住居

調査区は北端に位置し、径3.8mの円形を呈する。最初に設定した調査区北壁にかかっており拡張して調査を行った。炉は石囲い炉で、大形の河原礫で楕円形に石を組んでいる。主柱穴は深さ0.2m程度のものが4本で、南西隅に不整形の柱穴がある。北東壁より鉢形土器が床面からやや浮いた状況で潰れて出土した。主な出土遺物は縄文土器（加曾利E式土器）、石器（打製石斧等）である。

b. 屋外埋甕炉

1号流路の南岸際の、N6グリッドから埋甕炉が検出された。断面は皿状を呈し、扁平な河原礫2点と加曾利E式土器の大型破片が壁に立てかけるように並んでいた。覆土からは大型の土器破片と少量の焼土粒が検出される。

c. 配石遺構

調査区北端で検出された。楕円形の掘り込み内に敷石状に大形の河原礫が敷き並べられている。下部に掘り込みなどの遺構は確認されず、性格は不明であるが、出土した少量の土器と覆土から見て縄文時代のものと判断した。

d. 集石

北流路の南側の岸際で検出された。0.6mほどの円形の範囲に、破碎礫50点で構成されるが、礫は赤化する。掘り込みなどは確認されていない。

e. 1号流路

調査区を南西から北東にかけて斜めに横断して検出した。東側に行くにつれ流路の幅は狭くなり、最大幅25mを測る。東西90mの範囲を調査した。深さは1.0mを測り、鍋底状の断面を呈する。底面は東から西に向いて僅かに傾斜する。最下層はやや砂質土で、底面から中位層にかけては無遺物層である。覆土上半の黒色土にかけて遺物を包含する。調査時の所見では、覆土は西に行くにつれ湿り気が増加し、粘性と黒味が強くなる。

出土遺物は、縄文土器（前期・中期）、石器、礫が多量に出土する。遺物は流路東よりではなく西側に行き堆積層が厚くなるにつれ遺物量は増加する。縄文土器は大形破片が含まれるが復元できる個体はほとんどないが、遺存状態は良好で摩滅したものは少ない。また、石器、破碎礫が混在して検出され、自然礫（いも石）が多量に混入する。西側のB9グリッド付近からは大型破片が集中して出土する。

なお、自然科学分析により覆土最上層から浅間B軽石が検出され、底面からアカホヤ火山灰が検出されることから谷の形成が縄文時代前期中葉よりさかのばり、平安時代前後にこの谷の埋没が終わったことが推定される。

f. 2号流路

南流路は幅が広いが、東西方向に広がりを見せている。幅は10.0m、深さ0.3mを測り、浅く皿状を呈し

ていて、東に行くと消滅することが試掘調査の結果判明している。遺物は西側に少量分布し、流路というよりも崖地にたまたま遺物包含層と推定され、接続する1号流路の南側への広がりと推定される。なおこの谷は、近年まで地名の由来となった「亥ノ堀」と呼ばれる排水路として名残を残していたようである。

遺物は全体に土器・石器・礫が散漫に出土する。

g. 近世の土坑

1号流路と2号流路が合流する地点の微高地上に、土坑が17基検出された。長方形のものが14基と主体を占め、もっとも長いものが4.65mで、平均長軸2.0mほどである。主軸が南北方向を指すものと東西方向を指すものがある。断面は箱型を呈するものが主体である。土坑の覆土からは、礫や縄文土器破片が少量出土する。

5. 遺物（第6～9図、図版4～9）

縄文時代の遺物は多量の土器と他に石器がある。

a. 土器

今回出土した土器は、縄文時代前期から中期に属するものが多く、諸磯a式、諸磯b式、加曾利E式土器が見られる。ここで土器の大別の特徴を示し、遺物分布の傾向について記述を行う。

① 諸磯a式土器（第6図1～4）

1号流路下流のF8グリッド付近に4点出土する。外反する口縁下に波状沈線が施され、縦位に円形竹管刺突列を配するものである。

② 諸磯b式土器（第6図5～28）

1号流路全体から24点が出土した。中でもF8グリッドからは大形破片が集中して出土する。半裁竹管文による刺突列を中心とするもの、押し引き文を主体とするもの、浮線文によるものの3種類が見られる。大形破片は浮線文で、全周の1/4を残す。

③ 加曾利E式土器中葉の土器群（第7図49～53）

キャリバー形土器で口縁部文様帯に隆帯による渦巻き文や楕円区画を配し、頭部に無文帯を残し、胴部に懸垂隆帯、沈線文が垂下する深鉢を特徴とする。地文は縄文が主体となる。出土量は少ない。

④ 加曾利E式土器後半の土器群（第6図34、第7図1～48）

キャリバー形土器で口縁部に隆帯や沈線による渦巻き文や楕円区画を配するものである。頭部無文帯はなくなり、胴部に磨り消し縄文帯が垂下する深鉢を特徴とする。いわゆる連弧文土器は見られない。

⑤ いわゆる唐草文系の土器群（第8図1～15）

口縁が幅広く無文とされ、胴部上半に隆帯による渦巻き文が配されるバケツ状の器形の大型深鉢。

⑥ 脊部渦巻き文土器（第6図30、第8図16～36）

無文の口縁部を画した隆帯から胴部全面に隆帯により渦巻き文を施すキャリバー形深鉢である。沈線区画による無文帯がH字状になるものも見られる。1号流路下流のB9グリッド付近から集中して出土する。

⑦ 加曾利E式土器終末の土器群（第6図29・35～39・42・43、第9図1～53）

キャリバー形土器で口縁部文様帯が消滅し、口縁下から磨り消し縄文による渦巻き文やH字状文などが施される深鉢が特徴的である。また口縁下に二段の円形刺突列が巡らされるものや沈線により無文区画されるもので胴部に磨り消し縄文により渦巻き文が施されるものも出土する。この土器群も1号流路下流のB9グリッド付近から集中して出土する。

⑧ 中期終末から後期初頭の土器群（第6図41、第8図37～49、第9図54～73）

キャリバー形土器で口縁部文様帯が無文とされ、断面三角形の微隆起線文により口縁部を区画し、幅の広い無文帯を構成するバケツ状の深鉢に代表される。

一方、口縁下に幅広の沈線文をめぐらし、波頂部下に突起を配するタイプの深鉢やキャリバー形の深鉢の胴部に幾何学状の磨り消し縄文を施す深鉢が出土する。中に口縁に隆帯を巡らす壺形土器や注口部を有する鉢形土器が見られる。

⑨ その他の土器（第8図50～74、第9図74～98）

このほかに、地文が櫛書き文で施される深鉢、口縁が無文で外反し、胴部がソロバン玉状にくの字に屈曲する深鉢、無文の浅鉢などが見られる。台付土器があり、四方透かしのあるものや四脚のものが出土する。

また、底部の底面に網代痕を残す土器が確認された。

b. 石器

出土した石器は、総計で350点ある。器種別に見ると石鏃、石錐、磨製石斧、打製石斧、スクリーパー、穀器、石皿、凹石、石棒、磨石、砥石、スタンプ形石器、石錐、軽石である。この他に剥片や碎片、焼穀や礫片が数千点出土する。

石鏃は26点あり、素材は黒曜石、チャート、凝灰岩がみられる。凹基のもの、平基のものが主体である。赤色チャートを用いたものが7点あり、組成の中では目立つようである。(1~16、18~27)

石錐は1点でチャート製のものでつまみを作り出している。(17)

磨製石斧は5点出土し、定角型のものと乳棒状のものに分けられる。全体に欠損品が多く、刃部破片等の小破片が多い。(291~295)

打製石斧は264点出土した。形態からみると撥形が主体で短冊形と分銅形のものが少量出土する。撥形のもの側縁が湾曲するものと直線的なものを見られ、刃部は曲刃と直刃がみられる。中にトラッシュ様を呈するものもある。また粗い調整加工による小形品が目立ち、大型のものは欠損品が多い。(28~290、349~350)

穀器は7点出土するが、剥片の周縁を打ち欠いたようなものと穂核の一端を打ち欠いた穀器がある。より古い様相を示す石器であるがここでは縄文時代中期に伴出するものと考えられる。(326~345)

石皿は2点で、綠泥片岩製のものと台石といえるものがある。(346~347)

凹石は19点で、板状の綠泥片岩に多くの穴が穿たれたものと石鍬形を呈する磨石の両面の中央に一対の穴を穿つものもある。また、蜂の巣石といえる粗い砂質の石材を用いたものがある。(326~345)

石棒は綠泥片岩製の頭部破片が1点出土する。(348)

敲石は、楕円形穂の両端側縁に敲打痕を有するもので7点出土した。(296~302)

スタンプ形石器は6点出土する楕円形穂の一端を打ち欠き平坦面を作り出したもので、側面に敲打痕を残すものはみられない。穀器と同様、より古い様相を示す石器であるが、磨石の一形態と考え、ここでは縄文時代中期に伴出するものと考える。(303~308)

石鍬は扁平穂の二側縁の中央部分を打ち欠いたもので、1点出土する。(325)

軽石は1点出土したが、加工痕は明瞭ではないが、周縁に擦痕がみられる。(324)

磨石は明瞭に使用痕を残すものだけを抽出し2点出土した。なお、凹石に分類した中にもいわゆる磨石の一類のものがある。(309~310)

砥石は6点出土した。粗砥と仕上げ砥の2種類がある。(312~316)

剥片・碎片は約1000点が出土し、そのうちの1/4が黒曜石で残りはチャートが主体となる。

6.まとめ

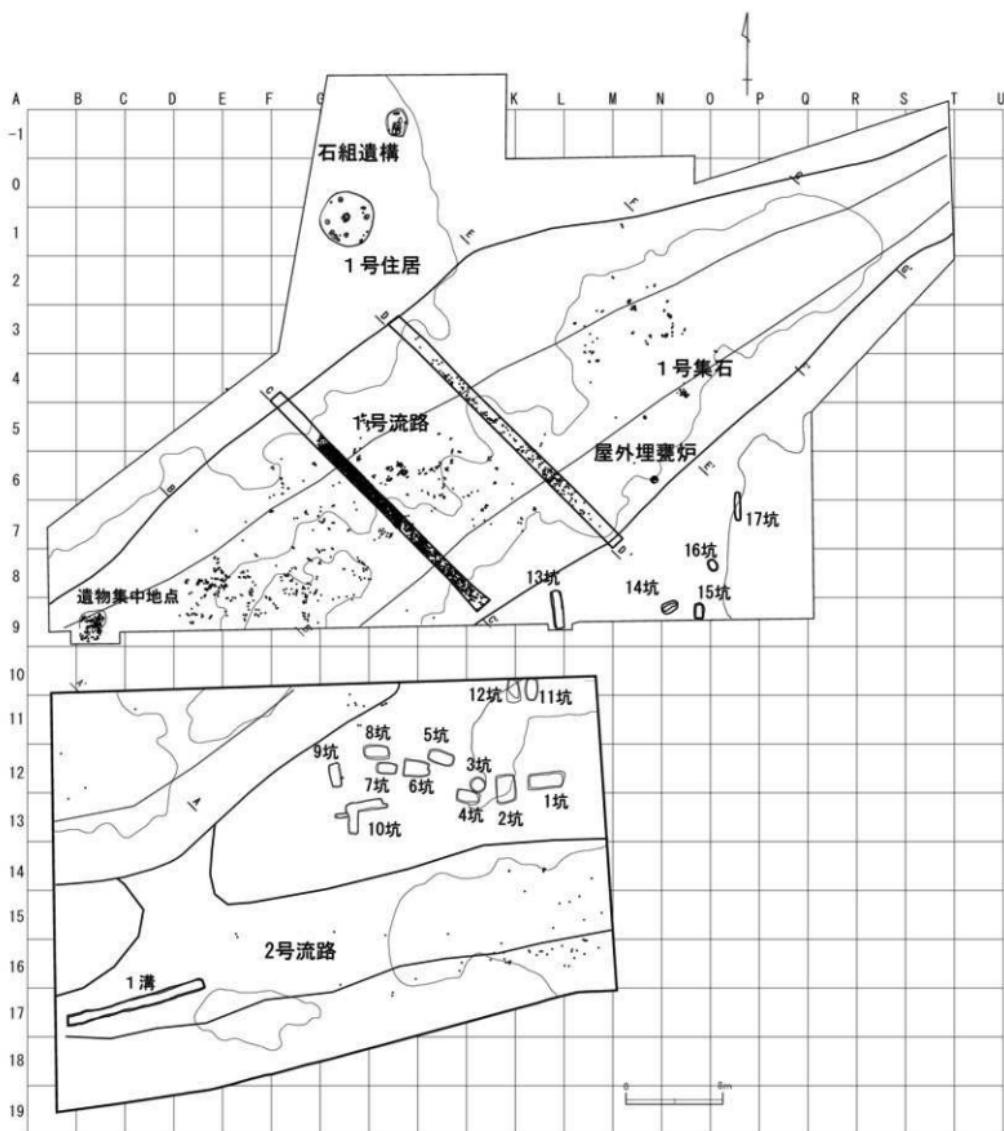
櫛引台地南縁の縄文時代の遺跡は、埋没谷に沿って小規模集落が点在する景観が特徴的である。亥ノ堀遺跡で発見された流路は、自然科学分析による堆積物の中に水生堆積物に特徴的な珪藻化石などはほとんど検出されてなく、流路の形成過程はともかくとしても埋没時には流水などにより堆積する環境になかったことが推測される。周辺に位置する沢口南遺跡で検出した流路も、調査時には湿潤な地層であるが亥ノ堀遺跡と同様に乾燥した窪地として堆積した場所として分析されている。この流路の形成については、江南台地上で大雨などが降った際に鉄砲水が走り窪地が形成された事例が伝わる。本遺跡例も同様に大雨などの際に一気に形成され、その後は特に流水などなく、自然堆積により徐々に埋没していくものと推定される。

出土遺物は多量の土器と石器、穀が出土した。土器は深鉢が主体で浅鉢はほとんど見られない。復元できる個体は非常に少なく、大型破片が包含層内に点在する。また、土製品や石棒などの特殊遺物は少なく、石器は打製石斧や石鏃・磨石類が目立つ。流路内から出土した穀には焼けたものは少なく、生の状態で破碎した穀が多く見られる。遺物の出土状態から見ると遺物の廃棄場所から土壤とともに二次堆積した結果と推定される。亥ノ堀遺跡の1号流路周辺の遺構は希薄であり、流路周辺で検出された屋外埋甕炉等の簡易施設を中心とした、屋外の作業場周辺の遺物廃棄場所として、流路埋没時の窪地は位置付けられる。

参考文献

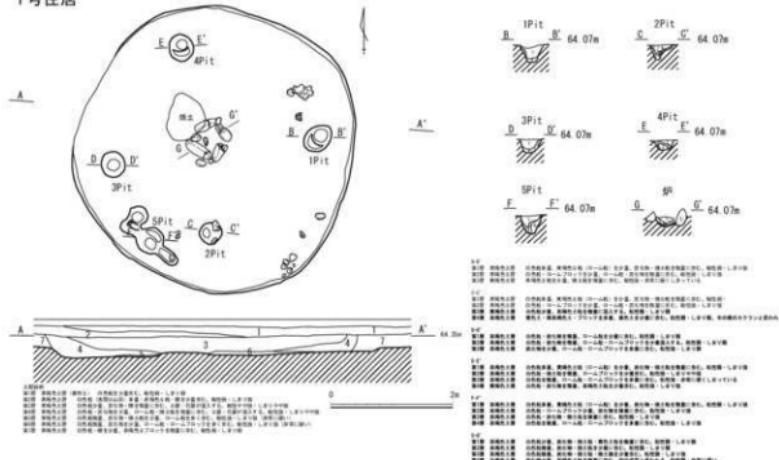
村松篤 1998 「縄文時代の埋没谷発掘調査と自然科学分析について」 埼玉考古34号所収

第2図 亥ノ堀遺跡全体図

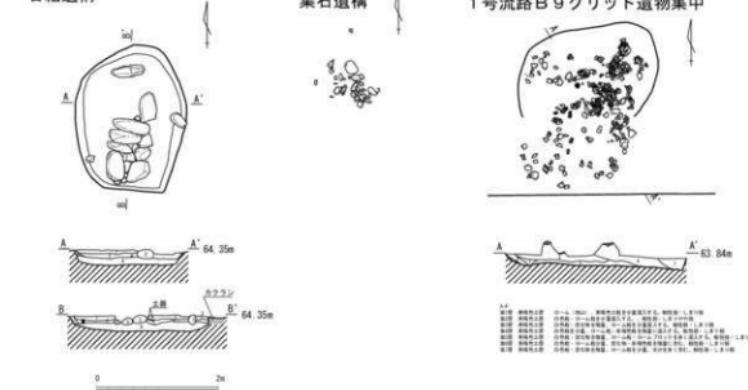


第3図 玄ノ堀遺跡遺構実測図1

1号住居



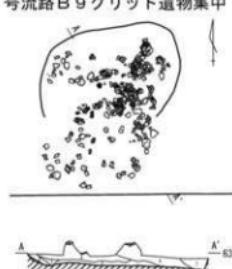
石組造構



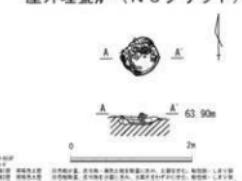
集石遺構



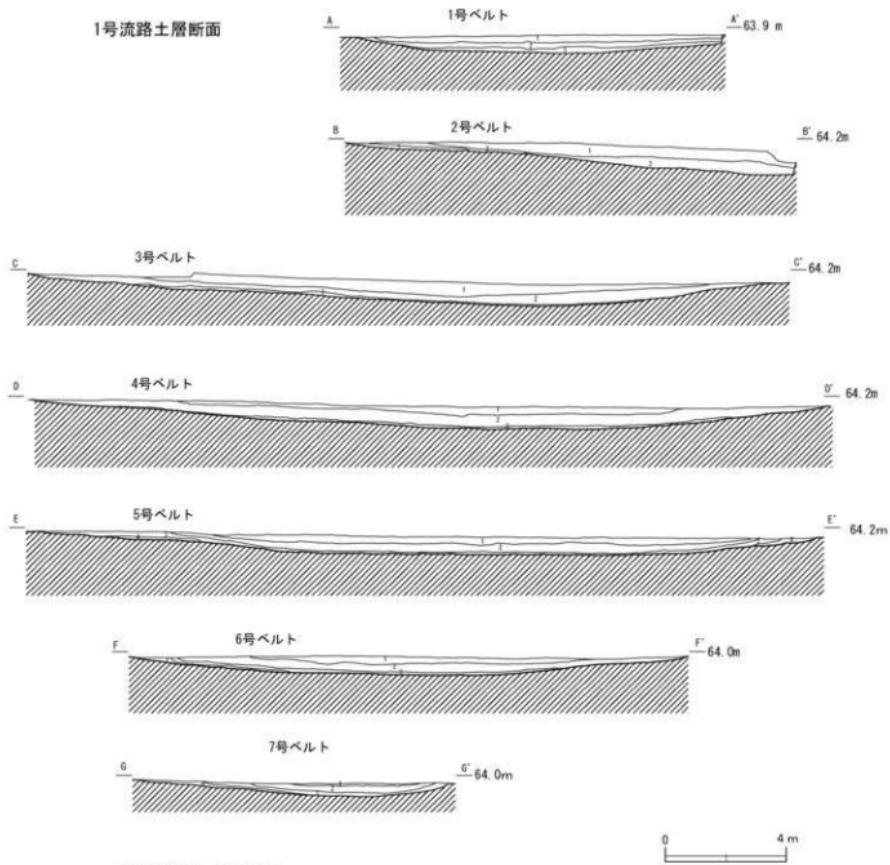
1号流路B9グリッド遺物集中



屋外埋壺炉 (N6グリッド)

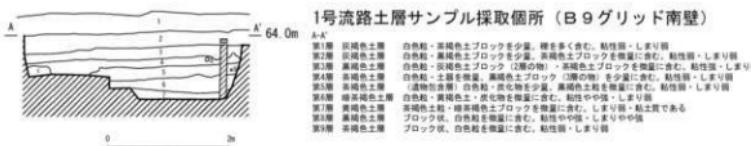


第4図 亥ノ堀遺跡遺構実測図2

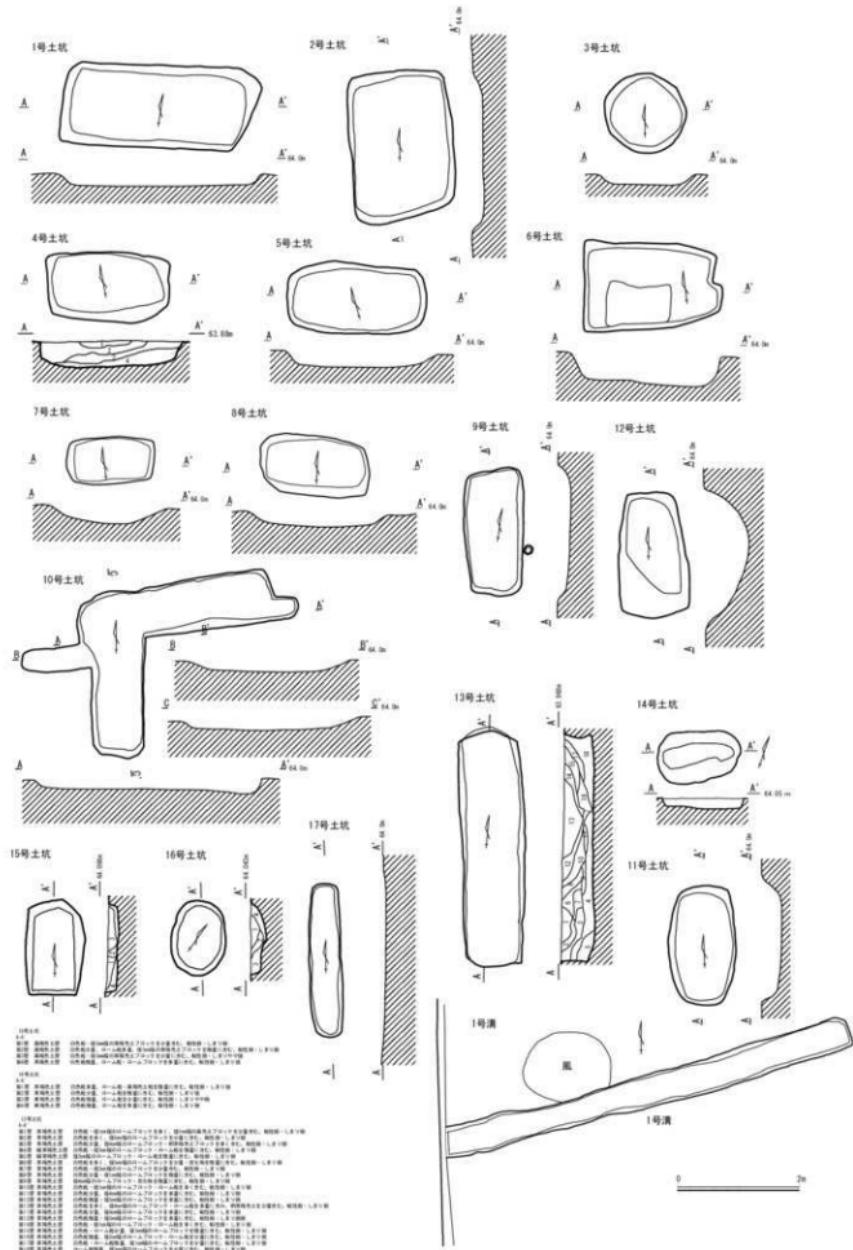


1号流路基本土層注記

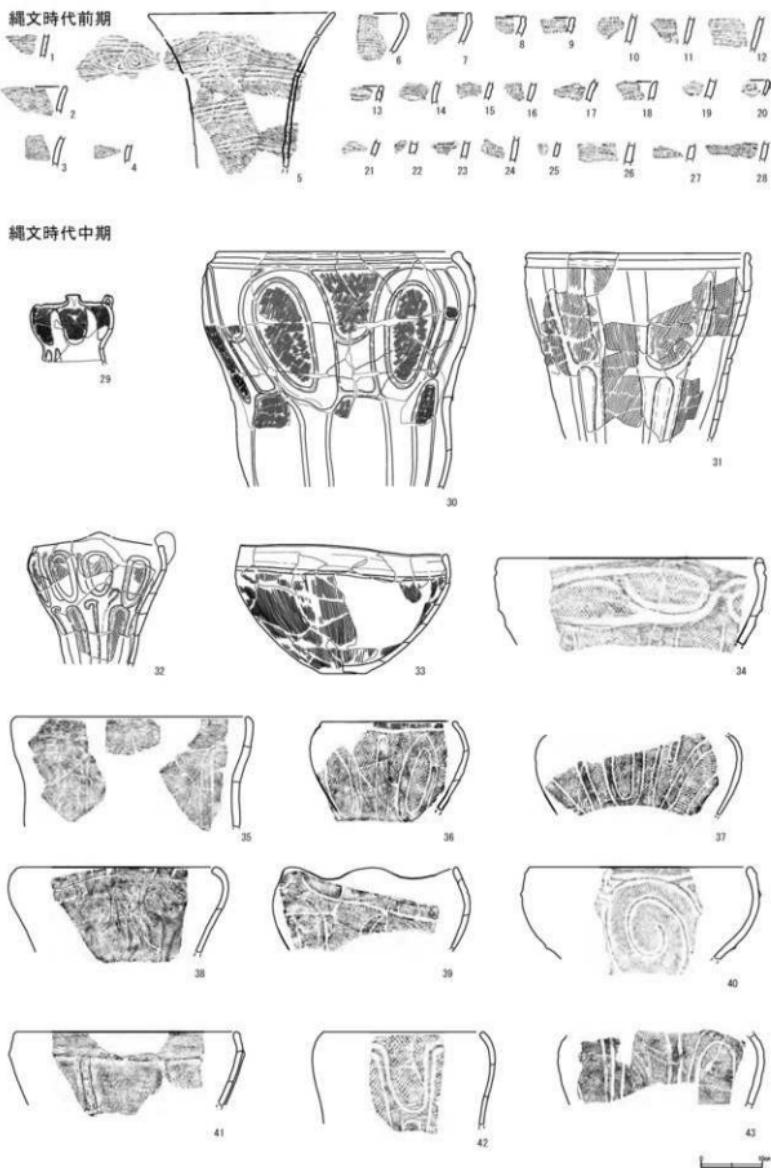
第1層	暗褐色土層	植物性物質、白色粘・無機物少量、黒褐色土粒を微量に含む。粘性弱・しまり弱
第2層	暗褐色土層	白色粘・褐褐色土粒を微量に含む。粘性やや強・しまり弱
第3層	黃褐色土層	褐褐色土粒ロック多量、暗褐色土粒少量、茶褐色土粒微量を含む。粘性強・しまり強
第4層	黃褐色土層	白色粘少量、暗褐色土粒微量に含む。粘性強・しまり強、非常に硬い



第5図 亥ノ堀遺跡遺構実測図3



第6図 玄ノ堀遺跡遺物実測図 1



第7図 玄ノ堀遺跡遺物実測図2



第8図 玄ノ堀遺跡遺物実測図3



第9図 玄ノ堀遺跡遺物実測図4



II. 諦光寺廃寺

1. 発掘調査にいたる経緯

平成 11 年 7 月に川本町都市計画課から本田字竹ノ花 1595-1, 1595-2 地内において武川中央土地区画整理事業予定地内における代替地予定地造成工事にかかる埋蔵文化財の所在に関する問い合わせがあつた。川本町教育委員会（以下町教委）は、開発する際には記録保存のための発掘調査が必要であると回答した。事前に平成 11 年 8 月 26・27 日の両日試掘調査を行ったところ、台地平坦面は大きく擾乱を受けており、斜面地を中心とする 600 mについて発掘調査が必要であると回答した。そこで平成 11 年 9 月 8 日付けで埋蔵文化財の所在における協議があり、本調査は川本町遺跡調査会が川本町土地開発公社理事長小川重雄から委託を受け、現地調査を平成 12 年 11 月 13 日～平成 13 年 1 月 19 日まで行い、その後整理作業は断続的に行つた。発掘届けは平成 12 年 12 月 25 日付け教文 2-98 号である。

2. 遺跡の位置（第 10 図）

諦光寺廃寺は、深谷市南部川本地域に所在し、江南台地北縁の荒川により形成された河岸段丘から一段高くなった洪積台地上に位置する。南側に向いた緩やかな傾斜地に東西 70 m、東西 70 m を推定寺域として、広がりを見せている。かつて、台地平坦面には礎石が残っていたことが伝えられるが、現在は擾乱によりその所在は不明である。

周辺には、縄文時代の集落が多数検出されていて、遺跡北側の竹ノ花遺跡、白草遺跡や西に位置する四反歩遺跡からは縄文時代各時期の遺構遺物が出土する。また、遺跡東側の谷を挟んだ南東 500 m に位置する百済木遺跡には中世寺院と推定される中世遺構群（万願寺跡）が発見された。また、竹ノ花遺跡からは本遺跡に見られるような長方形土坑が群生して発見されており、本遺跡周辺は中世遺跡の集中個所として位置づけることができる。

3. 遺構（第 11～17 図、図版 10～14）

発見された遺構は、地下式坑 2 基、集石土坑 1 基、火葬墓 7 基、土坑 92 基、溝 2 条であり、東傾斜の斜面地で出土した。調査区全体に重複しながら長方形土坑群が分布し、北端からは地下式坑 2 基、集石土坑 1 基が集中して検出された。火葬墓は主に調査区西側の平坦面に主に分布する。土坑は底面が広がる袋状の長方形土坑が主体で、長軸 3 m のものが南北方向に並んで検出された。

a. 地下式坑

2 基とも集石遺構と同じ調査区北東端の緩斜面から集中して検出された。1 号地下式坑は、台形の室に円形の入口から竪坑で接続するものである。2 号地下式坑は長方形の室に入口部から接続するものである。集石土坑続く礎が上面に検出されており、先行するものと判断できる。どちらも遺物は出土しない。

b. 集石土坑

調査区北東端の緩斜面から検出された。平面形はほぼ梢円形を呈するが、底面は北側の溝状の部分と南側の梢円形の部分に畦状の高まりによって仕切られる。西側と北側には方形の張り出し部が徐々に浅くなるよう伸びており入り口部と推定される。底面ほぼ中央部に柱穴列が直線的に並ぶ。

覆土中には多量の礎が堆積しており、底面でいうと南側の梢円形の幅広のほうに礎は集中している。また北側の張り出し部には帯状に礎が伸びており、続くことが想定される。土層を見るとレンズ状堆積をする。礎中には混在して瓦片、板磚破片、鐵釘が出土する。礎を除去した最下層からはほぼ完存するカワラケが出士した。

c. 火葬墓

火葬墓は C 7 グリッド付近から 5 基、調査区北端から 2 基が検出される。火葬墓は T 字形のもの 4 基、梢円形のもの 3 基であり、1～5 号土坑が調査区中央に並ぶように検出され、6・7 号火葬墓は調査区北壁際に並ぶように検出される。T 字形のものは張り出し部分を東側に設ける。いずれの火葬墓も、掘り込みは浅く、覆土中には焼土・炭化物を多量と骨粉を混在する。

d. 土坑

長方形土坑が 92 基検出された。大きく分けると北半のややまばらに分布する一群と D 7 グリッド付近を中心に密集する調査区中央南よりの一群に分けることができる。長方形のもの 64 基、小判形（楕円形）のもの 22 基、正方形のもの 4 基、円形のもの 5 基である。規模からみると最大のものは長さ 4.1 m を測り、2.5 m 以上長さがある大形のもの 42 基で、最小のものは長さ 0.8 m である。土坑の主軸は、76 基のものが西に 20 ~ 30 度ほど振れた同軸を指している。

土坑内からの出土遺物は少ないが、36 号土坑から鉄釘 1 点が出土、91 号土坑から山茶碗破片 1 点が出土するだけである。

4. 遺物（第 18・19 図、図版 14・15）

主な出土遺物としては、カワラケ、瓦、板碑破片、鉄釘、古銭があり、他に縄文時代早期の土器・石器も出土する。

a. 瓦（第 18 図 1 ~ 8）

瓦類は集石土坑から出土する軒瓦は、いわゆる剣頭文を施すもので一個体分が出土した。他に平瓦一個体分と丸瓦破片が出土する。

b. 中世の土器（第 18 図 9 ~ 13）

土器類は、集石土坑から出土する。カワラケは底部糸引きのもので、油煙痕を内面の口縁部に残し、灯明具として用いられたものと推定される。在地産陶器は鍋と推定されるもので、他に須恵器甕が出土する。

c. 板碑（第 19 図）

集石土坑から小片が 9 点出土する。北側の隣接地から 15 点の板碑破片が採集されており、調査区北側にかけて、板碑が建立されていたことが推定される。

d. 古銭（第 18 図 23）

包含層から北宋銭と考えられる宋 口 通寶 1 点が出土した。

e. 鉄釘（第 18 図 14 ~ 22）

鉄釘は、集石土坑から 9 点出土する。全て角釘で、長いもので 9.0 cm、短いもので 4.2 cm を測る。丸釘が 1 点出土するが包含層出土でもあり、現代のものである可能性がある。

f. その他の遺物（第 18 図 24 ~ 32）

中世以外の遺物としては、縄文早期の条痕文土器、後期の堀ノ内式土器、石器（石鎌、礫器、スクレイバー）と奈良時代の土師器壊破片が出土する

5.まとめ

諦光寺廃寺は從来から古代から中世にかけての廃寺であるといわれていたが今回が初めての発掘調査である。戦前まで今回の調査区の西側に礎石が残っていたと伝えられ、小金銅仏が発見されたともいわれている。今回発見された地下式坑、集石土坑、火葬墓、長方形土坑は、諦光寺に伴う墓域に伴う遺構であると推定される。また、北側の隣接地からは板碑が採集されていて、広域に墓域が形成されていたものと推定される。なお、集石土坑は類例のない遺構である。地下式坑の一種類とも考えられるが、底面の構造が特殊であり、今後の類例の増加を待ち性格を判断したい。

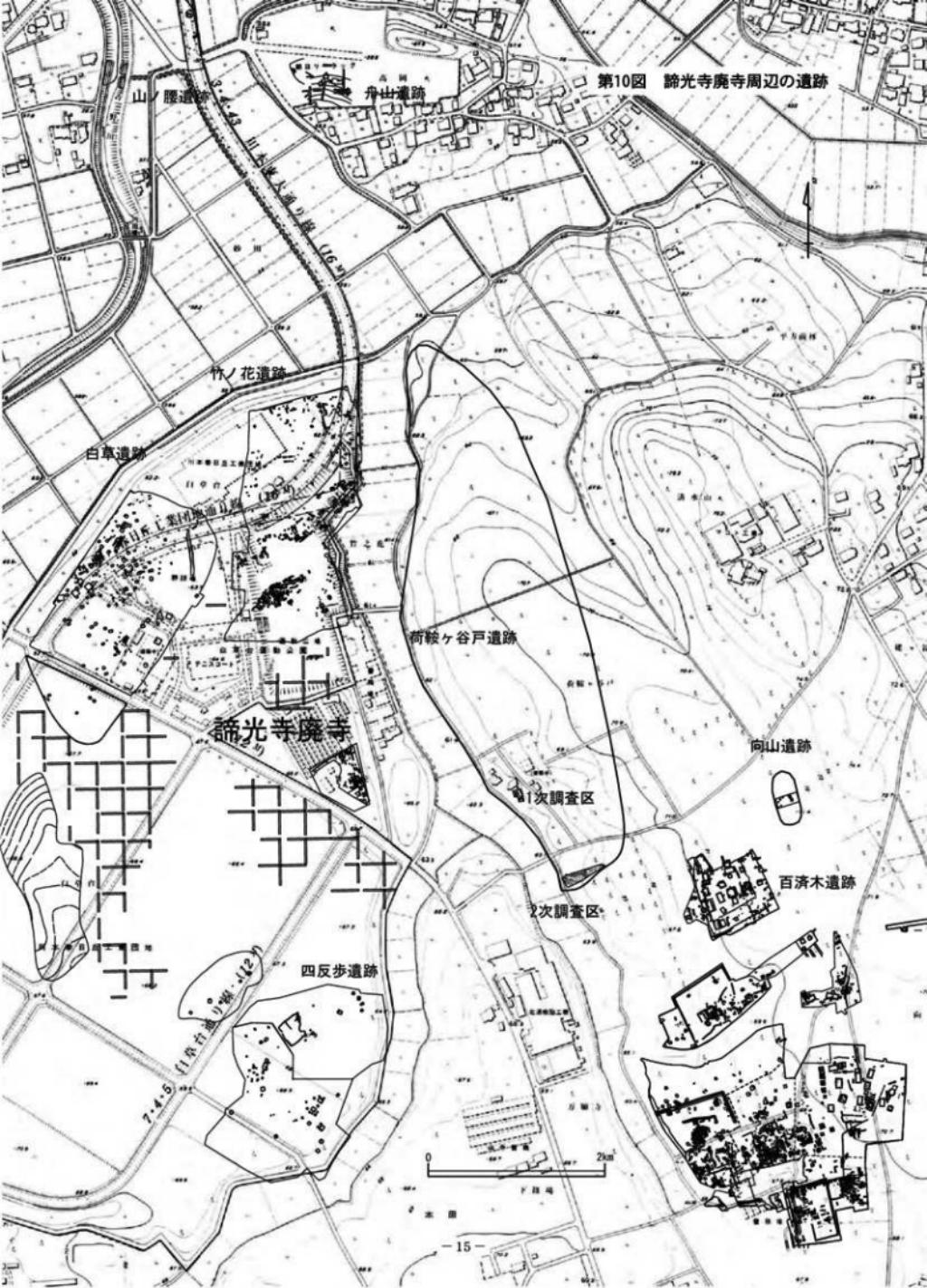
さて、諦光寺廃寺の南東 500 m に位置する百濟木遺跡では、二重の堀による方形区画を有する中世寺院が検出された。周辺に残る地名に由来する万願寺跡と推定される。区画中央には方形建物を中心とする墳墓が位置しており、取り囲むように地下式坑が分布する。長方形土坑はおおむね東西の二群に分かれており、多くのものが重複しながら検出された。墳墓城の東側には堀で区画された建物群も検出されていて、寺域の全貌が明らかにされた北武藏地域における中世寺院として注目される遺跡である。

諦光寺廃寺においても、地下式坑、集石土坑、火葬墓、長方形土坑が集中する個所が分かれる様子は百濟木遺跡でも見られる中世寺院内の遺構の在り方と同じ一事例と考えられ、今後は百濟木遺跡例と合わせて、北武藏地域における中世寺院の構造を考える上での一類型として検討を進めたい。

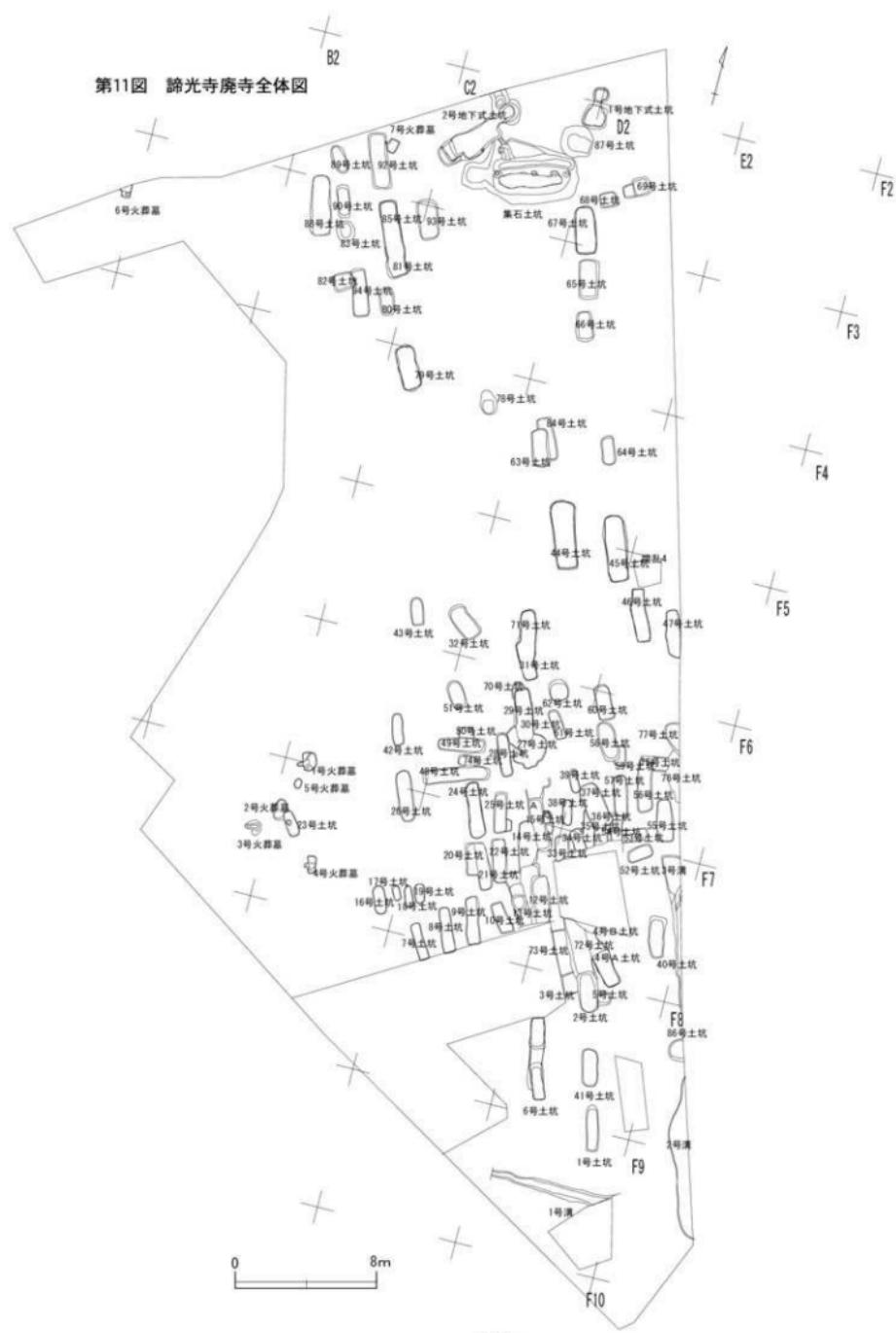
参考文献

川本町遺跡調査会 2000 「百濟木遺跡」

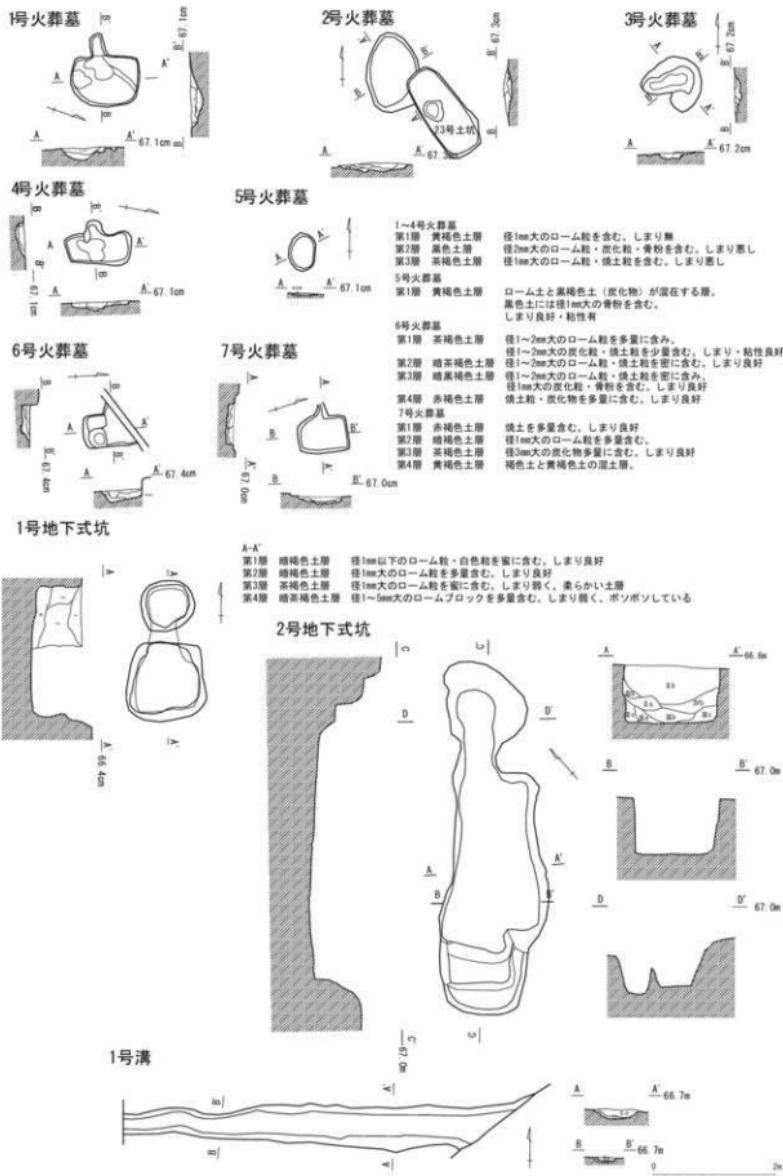
第10図 諦光寺廃寺周辺の遺跡



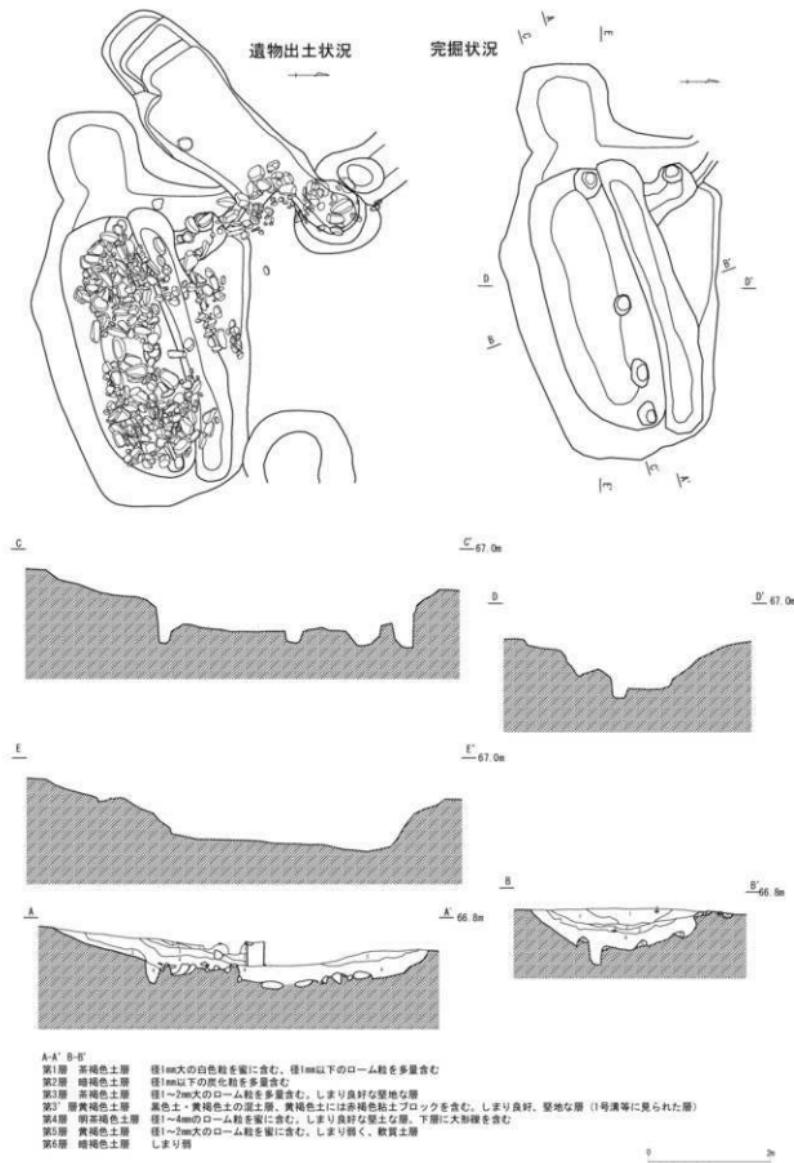
第11図 蹄光寺廃寺全体図



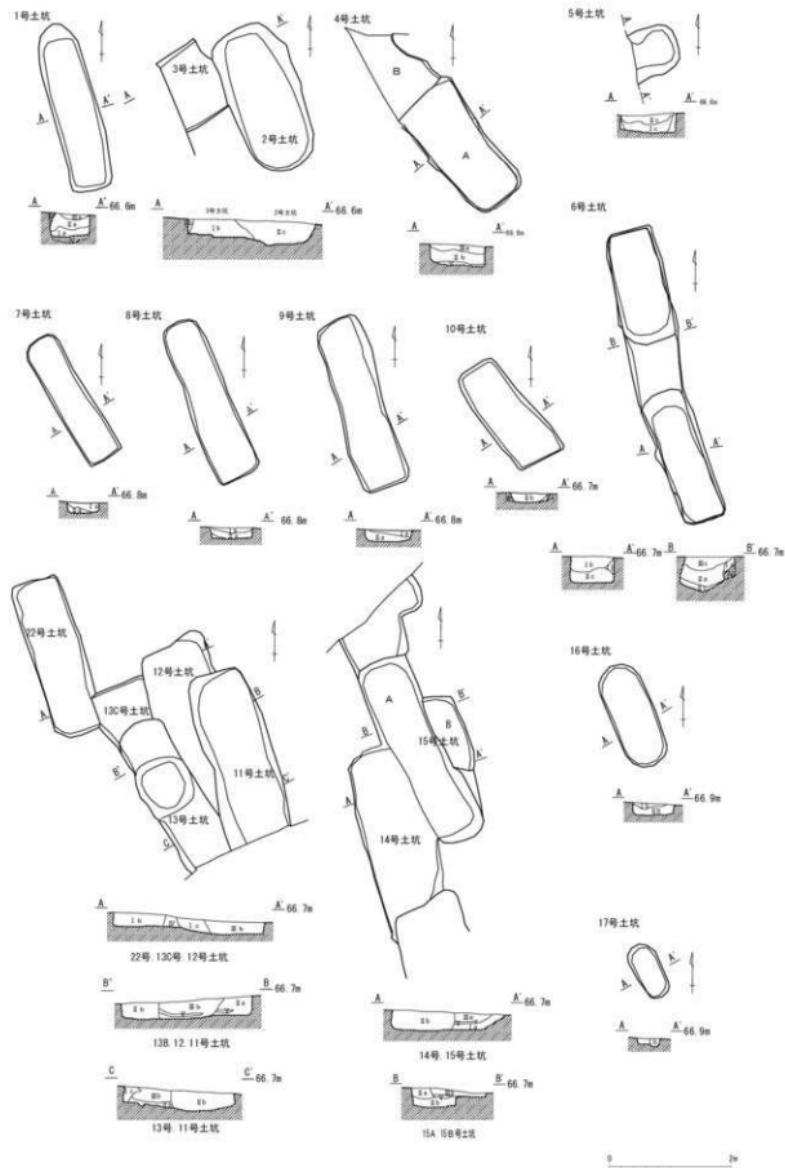
第12図 諦光寺廃寺遺構実測図 1



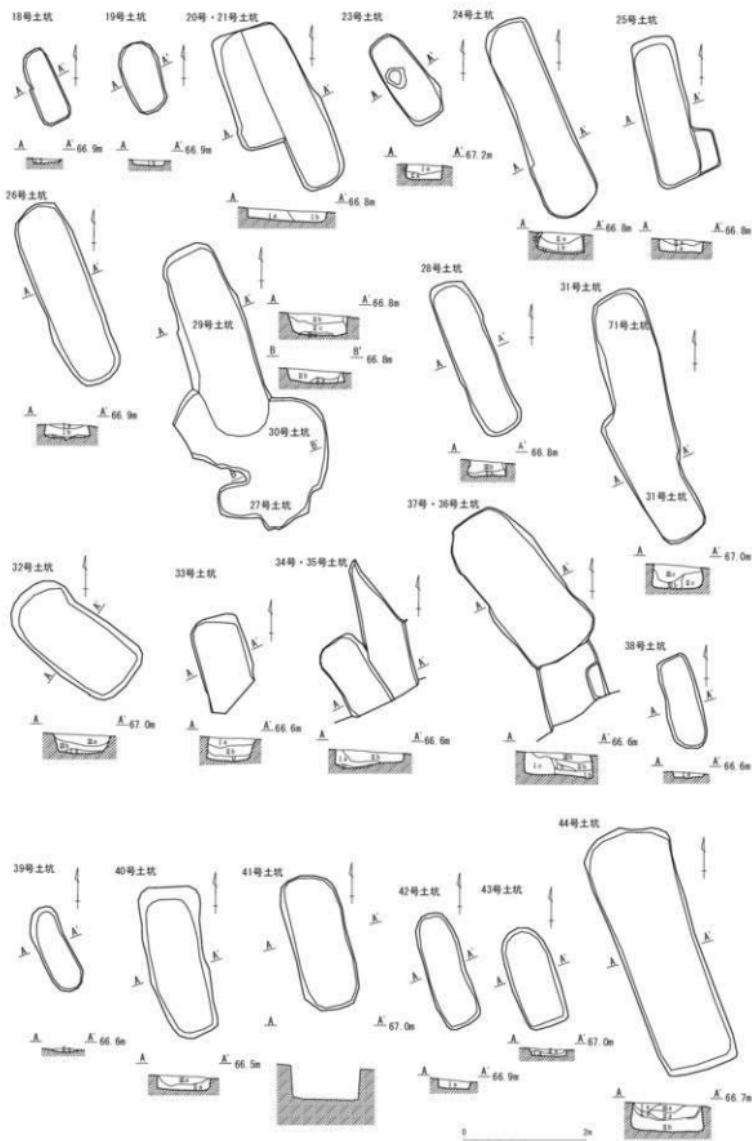
第13図 蹄光寺廃寺遺構実測図 2



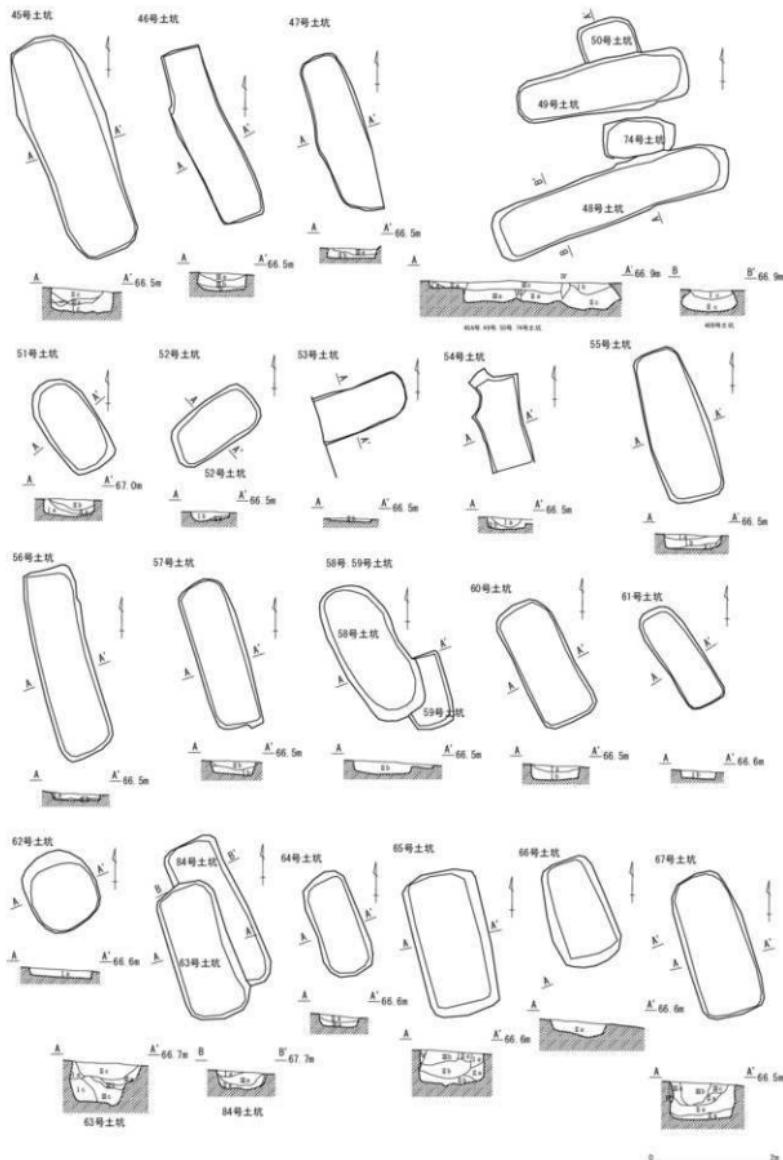
第14図 諦光寺廃寺遺構実測3



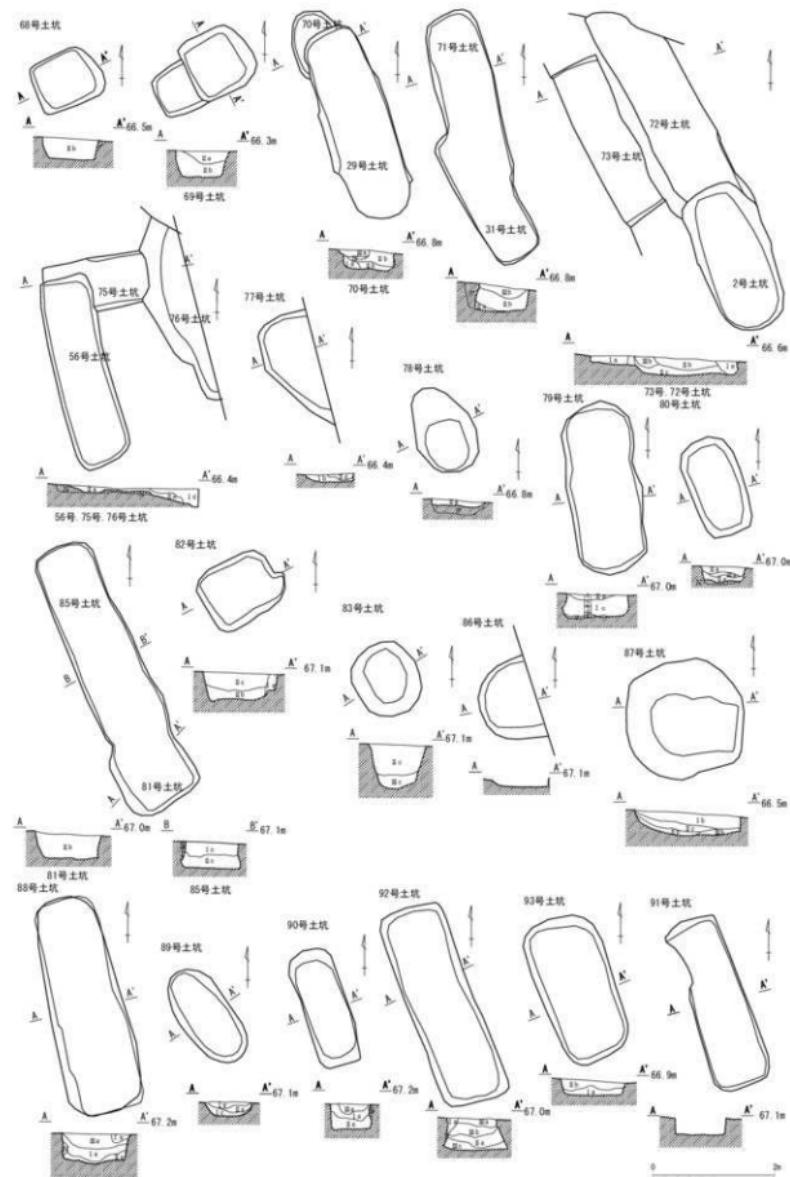
第15図 蹄光寺廃寺遺構実測図 4



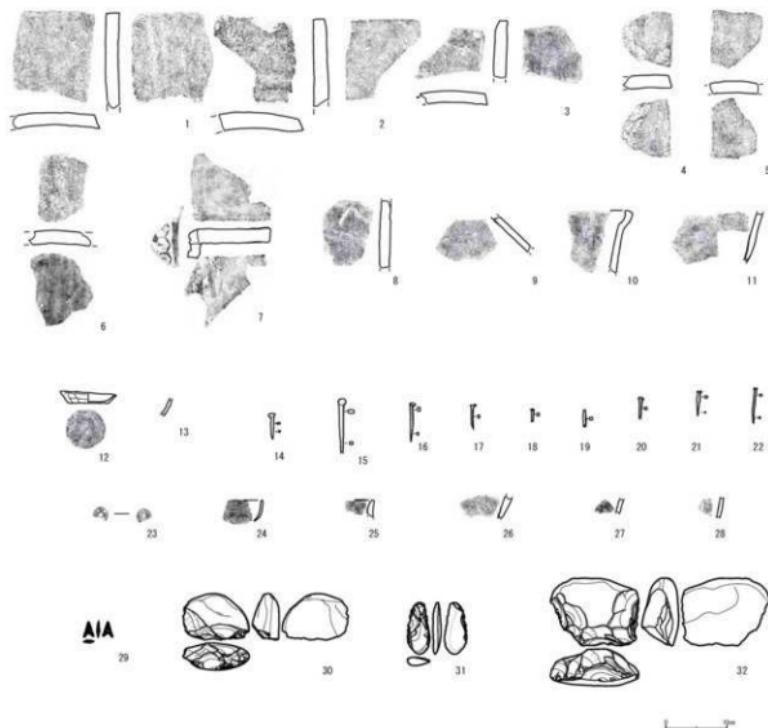
第16図 蹄光寺廃寺遺構実測図5



第17図 蹄光寺廃寺遺構実測図 6



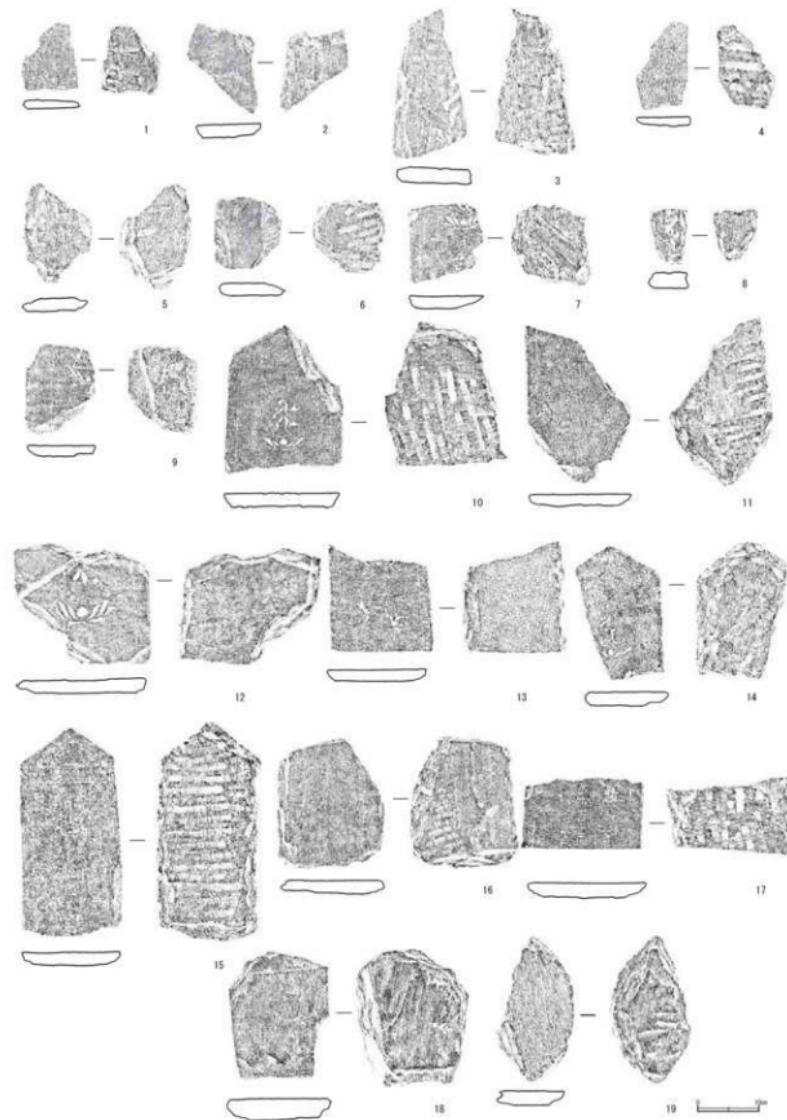
第18図 蹄光寺廃寺遺物実測図 1



蹄光寺廃寺遺構基本土層

- | | |
|------------|-----------------------------|
| I 層 茶褐色土 | I a ローム粒はほとんど含まれない。 |
| | I b 径1mm大のローム粒を多量含む。 |
| | I c 径3~5mm大のローム粒を多量含む。 |
| II 層 茶褐色土 | II a ローム粒をほとんど含まない。 |
| | II b 径1mm大のローム粒を多量含む。 |
| | II c 径3~5mm大のロームブロックを多量含む。 |
| | II d ローム等の粒子を多量含む。 |
| | II e II b層に赤色土が混入。 |
| | 周辺の区画溝に多く見られる。 |
| III 層 黒褐色土 | III a ローム粒をほとんど含まない。 |
| | 白色粒を多量含む。 |
| | III c 径3~5mm大のロームブロックを多量含む。 |
| IV 層 黄褐色土 | IV a ローム土層。 |
| | IV b ロームの二次堆積層。しまりなし。 |
| V 層 黒色土 | V a 黒色土と褐色土の混土層。 |
| | V b 黒色土はしまり良く、ブロック状に混在する。 |

第19図 蹄光寺廃寺遺物実測図 2



III. 鹿島遺跡5次調査

1. 発掘調査にいたる経緯

平成7年7月7日に川本町企画課から本田字平方裏44、45、191地内において白鳥飛来地駐車場整備及びに進入路整備事業にかかる埋蔵文化財の所在に関する問い合わせがあった。川本町教育委員会（以下町教委）は、開発区域は周知の埋蔵文化財包蔵地があることから、開発する際には記録保存のための発掘調査が必要であると回答した。事前に平成7年7月10・11日の両日試掘調査を行ったところ、A区は、道路整備地域で発掘調査が必要で、B区は全面調査を行う必要であると回答した。また、B区は近接する古墳との関係を調査するため一部周溝の調査を合わせて行うこととした。そこで平成7年9月8日付けで埋蔵文化財の所在における協議に基づき、本調査は川本町遺跡調査会が川本町から委託を受け実施することとし、現地調査をA区平成7年10月3日から6日、B区が平成8年3月1日～3月27日まで行なった。発掘届けは教文2-139号平成7年11月7日である。その後、整理作業を断続的に行い、報告書を刊行した。

2. 遺跡の位置

鹿島遺跡は、深谷市南部川本地域に所在し、荒川右岸の河岸段丘上に立地する。荒川に沿って約1kmにわたり構築された。7世紀代を中心とする鹿島古墳群は、100基以上の小円墳により構成される終末期古墳で、最近、終末期方墳も所在することが明らかになった。この古墳群の南側に7世紀以降の集落跡が重複して分布する。これまでに1次調査で竪穴住居4棟、3次調査で掘立柱建物2棟、4次調査では竪穴住居24軒と土坑、7次調査で竪穴住居1軒と土坑、8次調査で竪穴住居3軒が検出された。古墳群を構築した人々が居住した区域と考えられる。

今回調査区は、鹿島古墳群のほぼ東端に位置しており、A区は荒川との崖線直上でやや北向きの傾斜地で、河川に近いほうは礫層が露出する状態で検出された住居から北側には遺構は所在しないことが確認された。B区はA区から南に50m離れて位置し、古墳群が立地する微高地の裾を東西方向に5m幅で延べ100mを調査した。西側には遺構は分布せず、遺構は東側で断片的に検出された。

3. 遺構・遺物（第20・21図）

発見された遺構は、A区で竪穴住居1軒、土坑1基、溝1条、B区で埋没谷、土坑4基である。A区の溝は住居北側から東西方向で検出されたが性格等は不明である。

a. 1号住居

方形の住居で、西側1/2は調査区域外に広がる。東壁やや南よりにカマドが設けられ、袖はロームを掘り残している。内部はよく焼けており、南側に隣接して焼土が分布する。床は軟弱で、柱穴、貯蔵穴は検出されず、南西隅が搅乱される。カマド周辺から土師器台付甕が出土し、覆土中から土師器、須恵器破片が出土地する。

b. 埋没谷

鹿島83号古墳南側で検出される。古墳裾部の調査と合わせてみると蛇行しており、古墳群が占地した微高地の縁辺に位置する埋没谷と推定される。なお、鹿島83号古墳の周溝は明確ではなかった。覆土からは礫に混在して、古墳時代から平安時代の須恵器甕、瓶をはじめとして土師器、須恵器破片・礫が出土する。

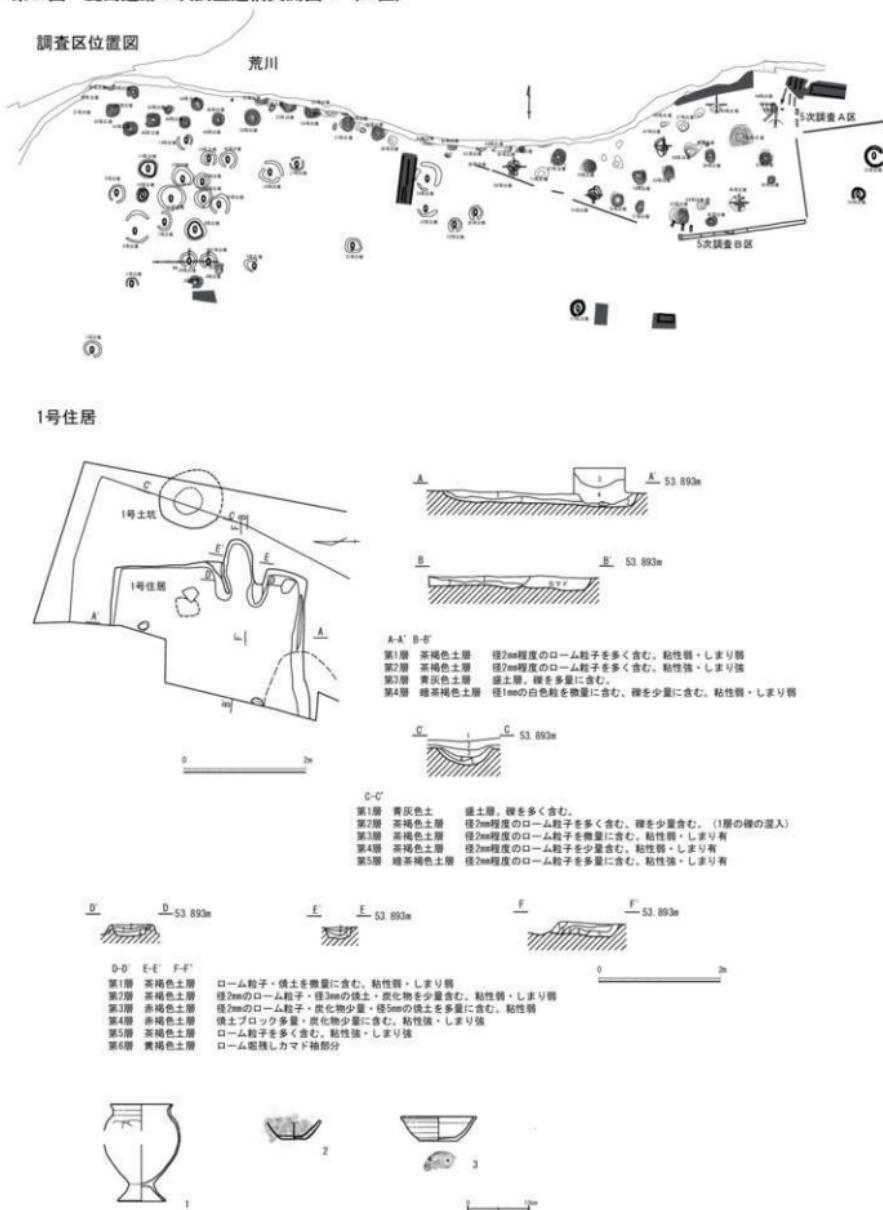
c. 土坑

A区1号住居東に隣接して円形の4号土坑が検出された。B区の東端から性格不明の土坑3基が検出された。南壁際で検出された3号土坑は柱穴状を呈する。出土遺物はない。

4. まとめ

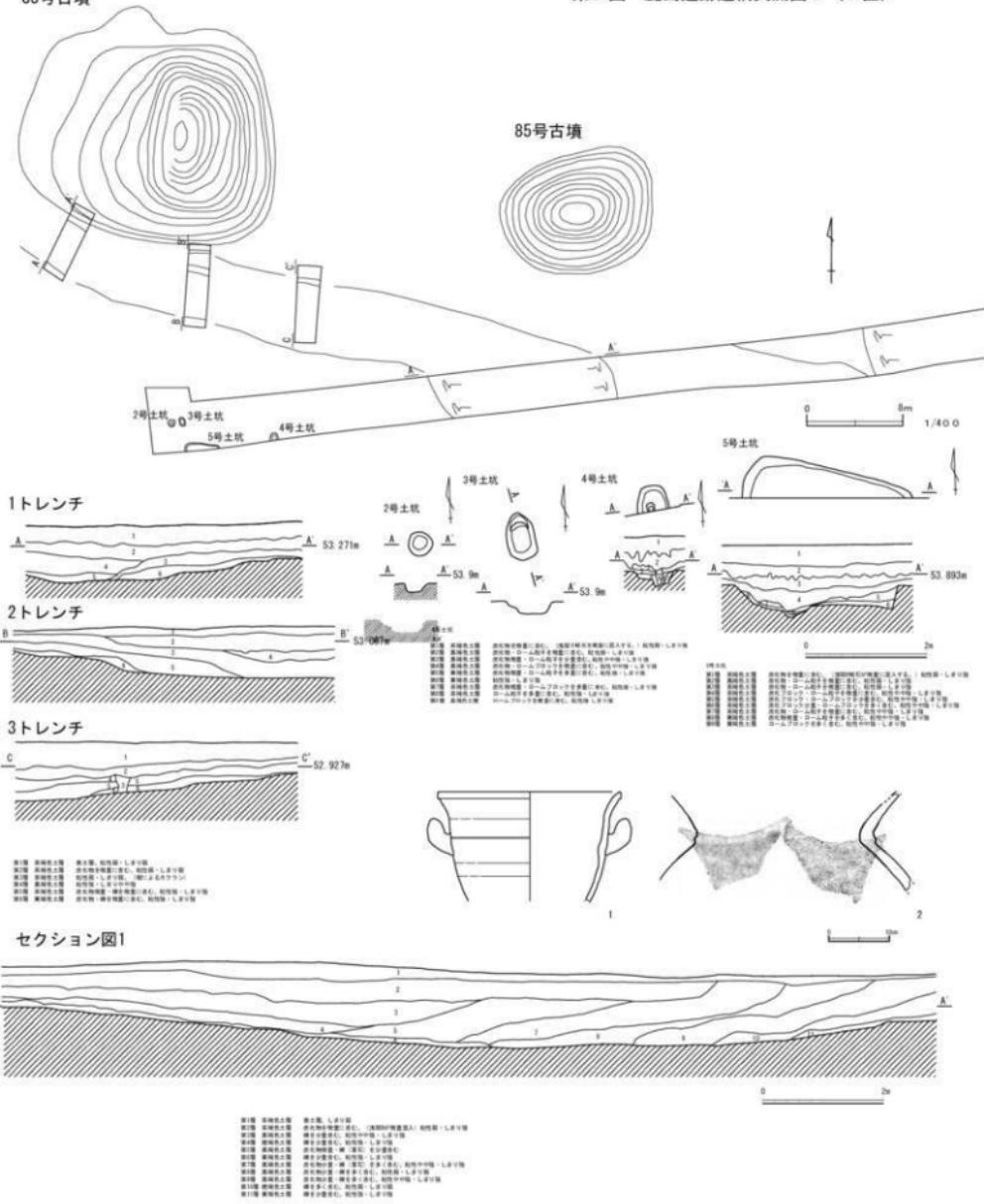
今回は限られた範囲の調査であるが、鹿島古墳群と集落の関係の一端が明らかにされた。B区からは集落は確認されず、この一帯では古墳群に接して集落は形成されない様子である。また、A区では平安時代の住居跡が確認されているが、これまでの調査では西側の古墳群内の確認調査では、集落は確認されてなく、古墳群と集落域をはっきりと認識して遺跡を占地していたことが窺える。

第20図 鹿島遺跡5次調査遺構実測図1 (A区)



83号古墳

第21図 鹿島遺跡遺構実測図 2 (B区)



第1表 安ノ堀遺跡遺構一覧表

時代	遺構 No	グリッド	形態	主軸	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	備考
成文中期	1 号 住居	G1	円形	—	4.75	4.65	0.50	床面から加曾利E式土器出土。
成文中期	1 号 聖石遺構	H1	楕円形	N-05-E	1.31	1.09	0.20	加曾利E式土器混在。
成文中期	1 号 墓	N6	円形	—	0.70	0.56	0.06	埋設土器出土。
成文中期	1 号 焼石	N4	楕円形	—	0.55	0.20	—	焼磯出土。
成文中期	1 号 流路	—	—	—	—	25.0	1.00	覆土上層から土器・石器・多量出土。
成文中期	2 号 流路	—	—	—	—	10.0	0.30	覆土上層から土器・石器・多量出土。
近世	1 号 土坑	03	長方形	N-05-W	3.90	1.04	0.54	断面袋状を呈す。
近世	2 号 土坑	Q3	楕円形	N-70-E	1.73	1.08	0.22	断面皿状を呈す。
近世	3 号 土坑	Q3	長方形	N-00-E	1.58	0.98	0.18	断面箱型を呈す。
近世	4 号 土坑	Q2	楕円形	N-25-W	1.22	0.90	0.25	断面皿状を呈す。
近世	5 号 土坑	R1	長方形	N-05-W	2.90	0.61	0.20	断面皿状を呈す。
近世	6 号 土坑	J13	長方形	N-80-E	3.22	1.36	0.30	断面箱型を呈す。
近世	7 号 土坑	J13	長方形	N-05-W	2.40	1.73	0.20	断面箱型を呈す。
近世	8 号 土坑	I13	円形	—	1.31	1.30	0.15	断面皿状を呈す。
近世	9 号 土坑	I13	長方形	N-80-W	2.03	1.15	0.15	断面箱型を呈す。
近世	10 号 土坑	I12	長方形	N-75-W	2.30	1.20	0.15	断面皿状を呈す。
近世	11 号 土坑	H12	方形	N-85-W	2.32	1.43	0.15	断面皿状を呈す。
近世	12 号 土坑	H12	長方形	N-80-W	1.35	0.96	0.30	断面皿状を呈す。
近世	13 号 土坑	H12	長方形	N-85-W	2.15	1.24	0.35	断面皿状を呈す。
近世	14 号 土坑	G13	長方形	N-15-W	2.14	0.96	0.15	断面皿状を呈す。
近世	15 号 土坑	G13	くの字状	N-80-E	4.65	2.80	0.20	断面台形を呈す。
近世	16 号 土坑	J11	楕円形	N-00-E	2.00	1.12	0.20	断面台形を呈す。
近世	17 号 土坑	J11	長方形	N-00-W	2.08	1.15	0.10	断面皿状を呈す。
近世	1 号 葦	B18	—	N-75-E	12.30	1.02	0.10	出土遺物なし。

第2表 請光寺廢寺遺構一覧表

時代	遺構 No	グリッド	形態	主軸	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	備考
中世	1 号 地下式坑	D2	T字形	N-110-W	2.30	1.30	6.80	出土遺物なし。
中世	2 号 地下式坑	C2	羽子板形	N-30-W	5.80	1.60	0.93	陶器 1・縁 1。
中世	1 号 亂葬基	C2	楕円形	N-100-W	6.60	3.80	0.90	覆土中から多量の礪土出土。瓦、竹矢、板玻璃片、角釘出土。
中世	1 号 火葬基	C7	T字形	N-110-W	1.20	1.15	0.20	剥落した礪片を残す。骨片、炭化物を含む。断面は皿状を呈す。
中世	2 号 火葬基	C7	楕円形	N-00-W	0.90	1.30	0.15	骨片、炭化物を残す。断面は皿状を呈す。
中世	3 号 火葬基	B7	楕円形	N-90-W	1.00	0.90	0.10	骨片、炭化物。断面は皿状を呈す。
中世	4 号 火葬基	C7	T字形	N-75-W	0.530	1.10	0.15	骨片、炭化物。断面は皿状を呈す。
中世	5 号 火葬基	C7	楕円形	N-00-W	0.60	0.45	0.08	僅かに骨片。断面は皿状を呈す。
中世	6 号 火葬基	A2	T字形	N-40-E	0.75	0.85	0.20	焼土、炭化粒を多量。断面は台形を呈す。底面に小穴を残す。
中世	7 号 火葬基	B2	T字形	N-110-W	0.85	0.85	0.15	敷石を残す。燒土、炭化粒を多量。断面は台形を呈す。
中世	1 号 土坑	E8	長方形	N-15-W	2.80	0.90	0.47	断面袋状を呈す。
中世	2 号 土坑	E8	小判形	N-15-W	2.50	1.30	0.38	断面皿状を呈す。3号土坑と重複。
中世	3 号 土坑	E8	長方形	N-60-E	1.20	0.90	0.29	断面箱型を呈す。1/5が残存。2号土坑と重複。
中世	4 号 土坑	E7	長方形	N-40-W	2.10	0.90	0.34	断面箱型を呈す。A・Bに分かれれる。
中世	5 号 土坑	E8	正方形	N-60-E	0.80	0.80	0.31	断面箱型を呈す。1/3 残存。
中世	6 号 土坑	E8	長方形	N-20-W	2.20	0.70	0.44	断面袋状を呈す。
中世	7 号 土坑	D8	長方形	N-30-W	2.20	0.60	0.16	断面箱型を呈す。
中世	8 号 土坑	D7	長方形	N-20-W	2.80	0.80	0.18	断面袋状を呈す。
中世	9 号 土坑	D7	長方形	N-20-W	2.90	0.80	0.18	断面箱型を呈す。
中世	10 号 土坑	D7	長方形	N-35-W	1.90	0.80	0.16	断面箱型を呈す。
中世	11 号 土坑	D7	長方形	N-20-W	2.80	1.10	0.32	断面箱型を呈す。1/2 残存。12・13号土坑と重複。
中世	12 号 土坑	D7	長方形	N-20-W	3.60	1.20	0.29	断面箱型を呈す。1/2 残存。11・13号土坑と重複。
中世	13 号 土坑	D7	長方形	N-30-W	2.50	0.80	0.27	断面箱型を呈す。1/2 残存。11・12号土坑と重複。
中世	14 号 土坑	D7	小判形	N-20-W	2.70	1.10	0.33	断面箱型を呈す。15号土坑と重複。
中世	15 号 土坑	D7	長方形	N-20-W	3.20	0.80	0.31	断面皿状を呈す。A・Bに分かれれる。14号土坑と重複。
中世	16 号 土坑	C7	小判形	N-30-W	1.70	0.70	0.21	断面箱型を呈す。
中世	17 号 土坑	D7	小判形	N-20-W	0.90	0.40	0.09	断面箱型を呈す。
中世	18 号 土坑	D7	長方形	N-20-W	1.20	0.40	0.08	断面皿状を呈す。
中世	19 号 土坑	D7	小判形	N-20-W	1.60	0.70	0.08	断面皿状を呈す。
中世	20 号 土坑	D7	長方形	N-20-W	1.90	0.60	0.15	断面箱型を呈す。21号土坑と重複。
中世	21 号 土坑	D7	長方形	N-20-W	2.80	0.80	0.17	断面箱型を呈す。20号土坑と重複。
中世	22 号 土坑	D7	長方形	N-30-W	2.60	0.90	0.23	断面箱型を呈す。13号土坑と重複。
中世	23 号 土坑	D7	小判形	N-20-W	1.60	0.70	0.26	断面袋状を呈す。
中世	24 号 土坑	D7	長方形	N-20-W	3.30	0.90	0.33	断面袋状を呈す。
中世	25 号 土坑	D7	長方形	N-20-W	2.40	0.80	0.21	断面箱型を呈す。
中世	26 号 土坑	C7	長方形	N-80-E	3.10	0.90	0.23	断面袋状を呈す。
中世	27 号 土坑	D6	小判形	N-20-W	2.50	0.80	0.21	断面箱型を呈す。30号土坑と重複。
中世	28 号 土坑	D6	長方形	N-20-W	2.60	0.70	0.24	断面袋状を呈す。
中世	29 号 土坑	D6	長方形	N-100-E	3.20	1.10	0.35	断面袋状を呈す。30・70号土坑と重複。
中世	30 号 土坑	D6	長方形	N-30-W	2.50	1.30	0.16	断面箱型を呈す。27・29号土坑と重複。
中世	31 号 土坑	D5	長方形	N-50-W	2.40	0.90	0.39	断面袋状を呈す。71号土坑と重複。

中世	32 号 土坑	D5	小判形	N-20-W	2.20	1.10	0.31	断面箱型を呈す。
中世	33 号 土坑	E7	小判形	N-20-W	1.40	0.80	0.38	断面箱型を呈す。
中世	34 号 土坑	E7	小判形	N-20-W	1.30	0.60	0.31	断面箱型を呈す。1/2 残存。35 号土坑と重複。
中世	35 号 土坑	E7	長方形	N-20-W	2.30	0.70	0.26	断面箱型を呈す。1/2 残存。34 号土坑と重複。
中世	36 号 土坑	E6	長方形	N-30-W	2.70	0.50	0.36	断面箱型を呈す。1/2 残存。37 号土坑と重複。鉄製品 1。
中世	37 号 土坑	E6	長方形	N-20-W	2.70	0.60	0.36	断面箱型を呈す。36 号土坑と重複。
中世	38 号 土坑	E6	小判形	N-20-W	1.50	0.60	0.09	断面箱型を呈す。
中世	39 号 土坑	E6	小判形	N-20-W	1.40	0.50	0.06	断面皿状を呈す。
中世	40 号 土坑	E7	長方形	—	2.50	0.90	0.23	断面箱型を呈す。
中世	41 号 土坑	E8	小判形	N-20-W	2.20	0.90	—	出土遺物なし。
中世	42 号 土坑	C6	長方形	N-20-W	1.90	0.60	0.13	断面箱型を呈す。
中世	43 号 土坑	C5	小判形	N-20-W	1.60	0.70	0.09	断面箱型を呈す。
中世	44 号 土坑	D5	長方形	N-20-W	4.10	1.30	0.45	断面袋状を呈す。
中世	45 号 土坑	E5	長方形	N-20-W	4.10	1.20	0.36	断面袋状を呈す。石器 1。
中世	46 号 土坑	E5	長方形	N-20-W	3.10	0.90	0.28	断面袋状を呈す。
中世	47 号 土坑	E5	長方形	N-70-E	2.80	0.90	0.16	断面箱型を呈す。
中世	48 号 土坑	D6	長方形	N-80-E	4.10	0.80	0.33	断面袋状を呈す。74 号土坑と重複。
中世	49 号 土坑	D6	長方形	—	2.80	0.80	0.31	断面箱型を呈す。50 号土坑と重複。
中世	50 号 土坑	D6	長方形	N-80-E	1.50	0.90	0.09	断面袋状を呈す。1/2 残存。49 号土坑と重複。
中世	51 号 土坑	D6	小判形	N-60-W	1.60	0.90	0.29	断面箱型を呈す。骨 1。
中世	52 号 土坑	E7	長方形	N-70-E	1.50	0.80	0.16	断面皿状を呈す。
中世	53 号 土坑	E7	長方形	N-20-W	2.40	0.80	0.05	断面皿状を呈す。1/2 残存。54 号土坑と重複。
中世	54 号 土坑	E7	長方形	N-20-W	1.70	0.70	0.18	断面箱型を呈す。1/2 残存。53 号土坑と重複。
中世	55 号 土坑	E6	長方形	N-20-W	2.60	1.10	0.24	断面箱型を呈す。
中世	56 号 土坑	E6	長方形	N-20-W	3.10	0.90	0.11	断面箱型を呈す。75 号土坑と重複。
中世	57 号 土坑	E6	長方形	N-30-W	2.60	0.80	0.21	断面箱型を呈す。
中世	58 号 土坑	E6	小判形	N-20-W	2.40	0.90	0.21	断面箱型を呈す。59 号土坑と重複。骨 1。
中世	59 号 土坑	E6	小判形	N-20-W	1.20	0.70	0.06	断面皿状を呈す。1/2 残存。58 号土坑と重複。
中世	60 号 土坑	E6	長方形	N-20-W	2.10	0.90	0.23	断面箱型を呈す。
中世	61 号 土坑	D6	長方形	N-20-W	1.80	0.60	0.12	断面箱型を呈す。
中世	62 号 土坑	D6	円形	N-20-W	1.20	1.10	0.12	断面箱型を呈す。
中世	63 号 土坑	D4	長方形	N-20-W	2.20	1.10	0.64	断面袋状を呈す。84 号土坑と重複。
中世	64 号 土坑	D4	長方形	N-20-W	1.80	0.80	0.18	断面箱型を呈す。
中世	65 号 土坑	D3	長方形	N-20-W	2.30	1.20	0.54	断面袋状を呈す。
中世	66 号 土坑	D3	長方形	N-20-W	1.70	1.10	0.81	断面皿状を呈す。
中世	67 号 土坑	D3	長方形	N-30-W	2.80	1.20	0.59	断面袋状を呈す。
中世	68 号 土坑	D2	正方形	N-30-W	0.90	1.10	0.34	断面箱型を呈す。
中世	69 号 土坑	D2	長方形	—	2.70	1.10	0.43	断面箱型を呈す。
中世	70 号 土坑	D6	円形	N-20-W	1.10	0.80	0.31	断面箱型を呈す。29 号土坑と重複。
中世	71 号 土坑	D5	長方形	N-30-W	2.90	1.10	0.43	断面袋状を呈す。31 号土坑と重複。
中世	72 号 土坑	E7	長方形	N-30-W	3.60	1.20	0.27	断面箱型を呈す。2・73 号土坑と重複。
中世	73 号 土坑	E7	長方形	N-80-E	2.70	0.90	0.12	断面箱型を呈す。72 号土坑と重複。
中世	74 号 土坑	D6	長方形	N-80-E	1.20	0.60	0.35	断面袋状を呈す。48 号土坑と重複。
中世	75 号 土坑	E6	長方形	N-30-W	1.80	0.80	0.09	断面皿状を呈す。56・76 号土坑と重複。
中世	76 号 土坑	E6	小判形	N-40-W	3.10	0.80	0.29	断面皿状を呈す。1/4 残存。75・77 号土坑と重複。
中世	77 号 土坑	E6	椭円形	N-20-W	2.10	1.10	0.12	断面箱型を呈す。76 号土坑と重複。
中世	78 号 土坑	C4	椭円形	N-05-W	1.50	1.10	0.22	断面皿状を呈す。
中世	79 号 土坑	C4	長方形	N-20-W	2.80	1.10	0.35	断面袋状を呈す。土器 1。
中世	80 号 土坑	B3	小判形	N-20-W	1.60	0.90	0.29	断面箱型を呈す。
中世	81 号 土坑	B3	円形	N-60-E	1.20	1.20	0.41	断面箱型を呈す。85 号土坑と重複。
中世	82 号 土坑	B3	正方形	—	1.10	1.20	0.43	断面箱型を呈す。91 号土坑と重複。
中世	83 号 土坑	B3	正方形	N-20-W	1.20	1.10	0.72	断面U字状を呈す。
中世	84 号 土坑	D4	長方形	N-20-W	2.60	0.90	0.26	断面箱型を呈す。1/2 残存。63 号土坑と重複。
中世	85 号 土坑	B3	長方形	—	3.50	1.10	0.42	断面袋状を呈す。81 号土坑と重複。
中世	86 号 土坑	F8	円形	—	1.40	0.90	0.10	1/2 残存。
中世	87 号 土坑	D12	円形	N-20-W	1.90	1.90	0.36	断面錐状を呈す。
中世	88 号 土坑	B3	長方形	N-35-W	3.60	1.10	0.49	断面箱型を呈す。土器 1。
中世	89 号 土坑	B2	小判形	N-20-W	1.70	0.80	0.24	断面皿状を呈す。
中世	90 号 土坑	B3	長方形	N-20-W	1.90	0.70	0.41	断面袋状を呈す。
中世	91 号 土坑	—	長方形	N-20-W	2.80	0.90	0.25	断面箱型を呈す。
中世	92 号 土坑	B2	長方形	N-20-W	3.40	1.10	0.51	断面袋状を呈す。
中世	93 号 土坑	C2	長方形	N-20-W	2.40	1.20	0.25	断面箱型を呈す。

第3表 鹿島遺跡5次調査遺構一覧表

時代	遺構 No	グリッド	形態	主軸	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	備考
不明	2 号 土坑	B 区	円形	—	0.40	0.40	0.24	出土遺物なし。
不明	3 号 土坑	B 区	橢円形	—	0.75	0.50	0.20	出土遺物なし。
不明	4 号 土坑	B 区	橢円形	—	0.70	0.55	0.15	柱穴状、出土遺物なし。
不明	5 号 土坑	B 区	橢円形	—	2.80	0.70	0.55	1/3 調査。土器類少量出土。
古墳	1 号 包含層	B 区	—	—	—	15.0	0.80	須恵器類、瓶出土。

報告書抄録

フリガナ	イノホリイセキ・ティコウジハイジ・カシマイセキ(ダイゴジチョウサ)											
書名	亥ノ堀遺跡・諸光寺廃寺・鹿島遺跡(第5次調査)											
副書名												
シリーズ	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書											
編著者	村松篤											
編集機関	深谷市教育委員会											
所在地	〒366-0823 埼玉県深谷市本住町17-3 TEL 048-572-9581											
発行日	2008年3月25日											
所収遺跡	所在地フリガナ	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m)	調査原因					
フリガナ												
イノホリイセキ 亥ノ堀遺跡	深谷市長住家23	11406 173	36.12134 139.28497	1997.01.13 ~ 1997.03.31	5,000	区画整理						
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項							
亥ノ堀遺跡	集落	縄文 中期	堅穴住居1 流路2	土器、石器、 土製品	流路を中心とした集落の調査 大量の土器石器出土							
		縄文前期	包含層	土器								
		中近世	土壤 17 溝1	無								
発掘調査の概要												
縄文時代中期後半の南北2本の流路を中心とする調査報告である。調査区を東西に横断する流路内には多量の土器・石器が流れ込んでおり、出土している流路下層から諸破口式土器が出土しており、流路の形成はその頃まで遡ることができ、中期後半に埋没したことが土層の状況から推定される。ただし流路内の土層には、流水性の堆積物は見ることができない。北側の微高地上に住居1軒が検出されており、周辺に集落跡が形成されていることが推定される。土器は加曾利E式後半の土器が主流であり、復元できる個体も見られる。石器も縄ともども多量に出土しており、石器、打製石斧、磨製石斧、石皿、石棒などが出土している。櫛引台地に特徴的に見られる縄文中期集落の類例が新たに加えられた。												
所収遺跡	所在地フリガナ	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m)	調査原因					
フリガナ												
ティコウジハイジ 諸光寺廃寺	深谷市本田 1595-1、 1595-2	11406 116	36.12081 139.28442	2000.11.27 ~ 2001.01.19	600	工場建設						
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項							
諸光寺廃寺	寺院	縄文 早期	包含層	土器、石器								
		中近世	地下式土坑2、集石土坑1、火葬墓7、土壙92	カワラケ、古銭、真、 1、火葬墓7、土壙92 鉄釘等	中世寺院の墓域							
発掘調査の概要												
中世寺院、諸光寺廃寺の周辺部分の調査。かつて礎石が残っていたと伝えられるが、その部分は搅乱されており、東側の調査に限定された。地下式土坑、集石土坑、火葬墓、長方形土坑が地点を分けて検出され、地下式土坑からは瓦、カワラケが出土している。北側の隣接地からは板碑が検出されていて、本堂域を囲むように本報告の東側の遺構群と合わせて墓域を形成していたことがわかる。												
所収遺跡	所在地フリガナ	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m)	調査原因					
フリガナ												
カシマイセキ 鹿島遺跡	深谷市本田 44、45、 191	11406 134	36.13307 139.30760	1995.10.03 ~ 06 1996.03.01 ~ 27	1000	道路整備						
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項							
鹿島遺跡	集落	古墳時代 平安時代	埋没谷 住居、土壙	須恵器類、瓶 土師器付甕								
発掘調査の概要												
埼玉県指定史跡鹿島古墳群隣接地の調査。A区からは住居1軒が検出された。B区からは微高地に沿った埋没谷が検出され、古墳時代から平安時代の遺物が出土した。古墳側からは周溝など古墳の施設は未確認。												

亥ノ堀遺跡・諸光寺廃寺・鹿島遺跡(第5次調査)

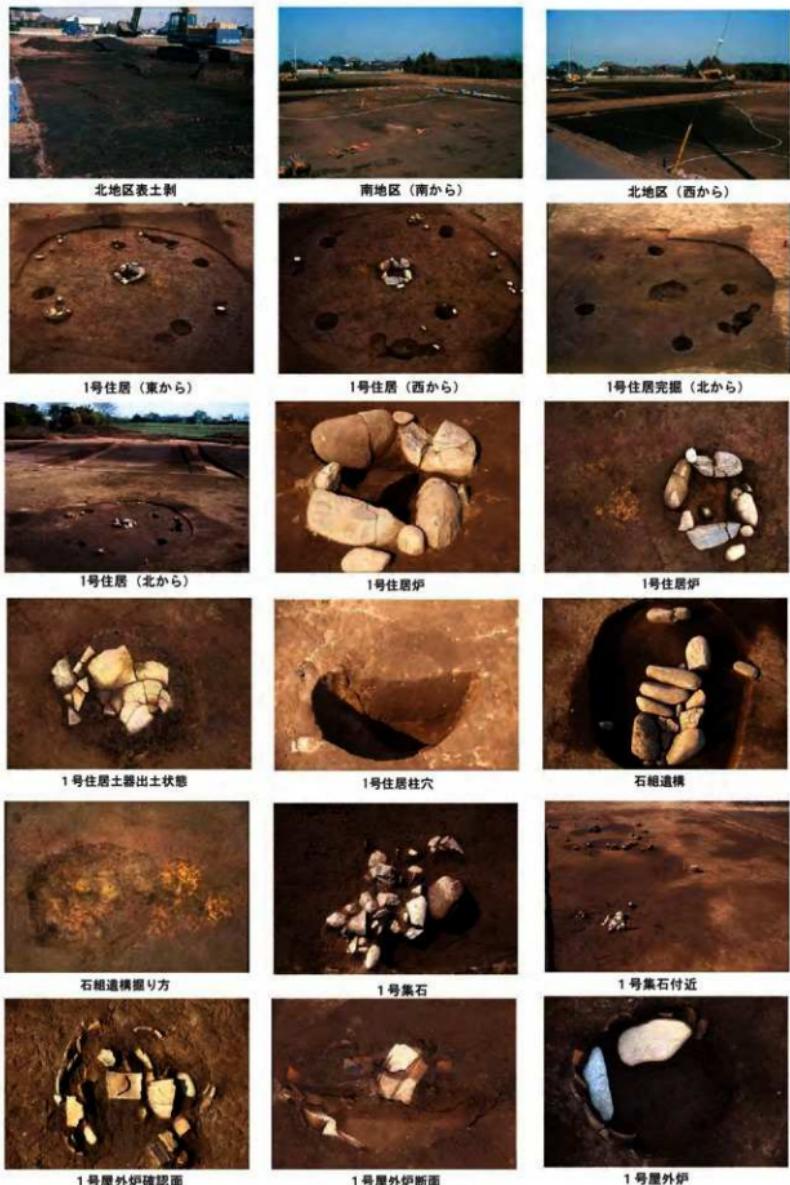
発行年月日 平成20年3月25日

編集・発行 深谷市教育委員会

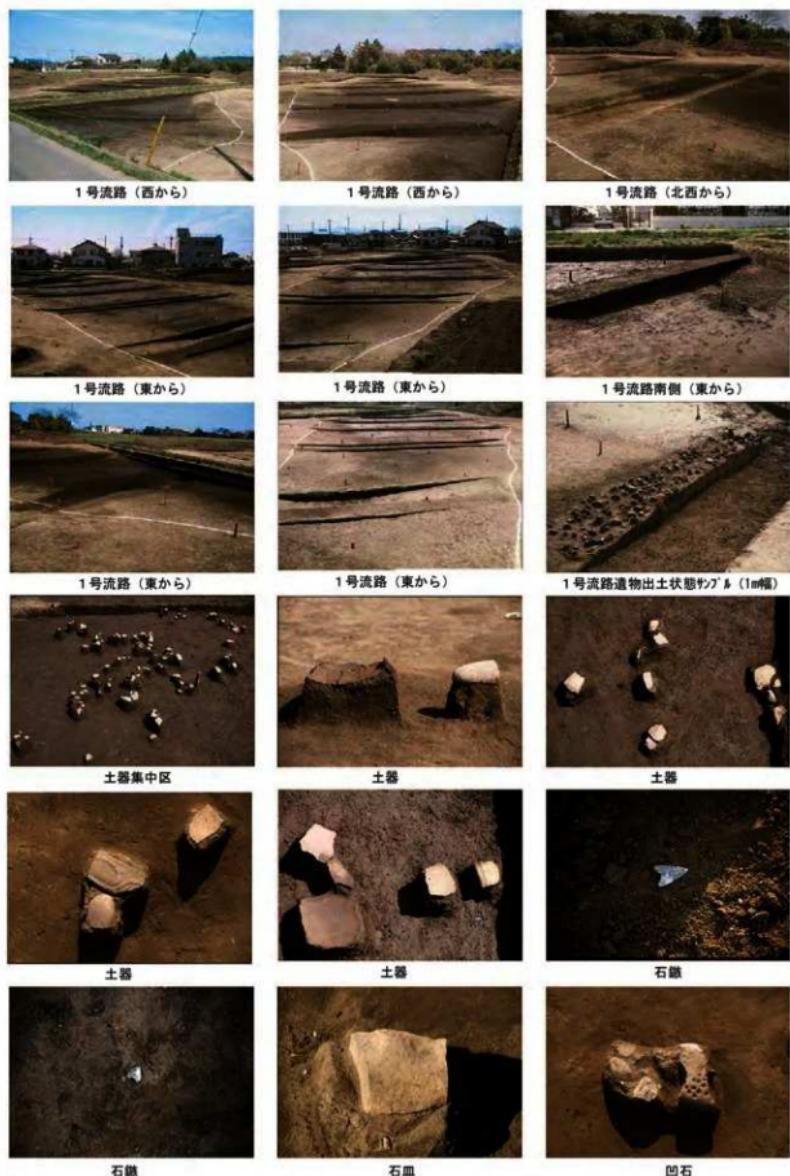
埼玉県深谷市本住町17-3

印 刷 たつみ印刷株式会社

図版1 玄ノ堀遺跡（遺構）



図版2 玄ノ堀遺跡（遺構）



図版3 玄ノ堀遺跡（遺構）



調査区全景（南から）



南地区土坑群（東から）



南地区土坑群（北東から）



1号土坑



2号土坑



3号・4号土坑



9号土坑



10号土坑

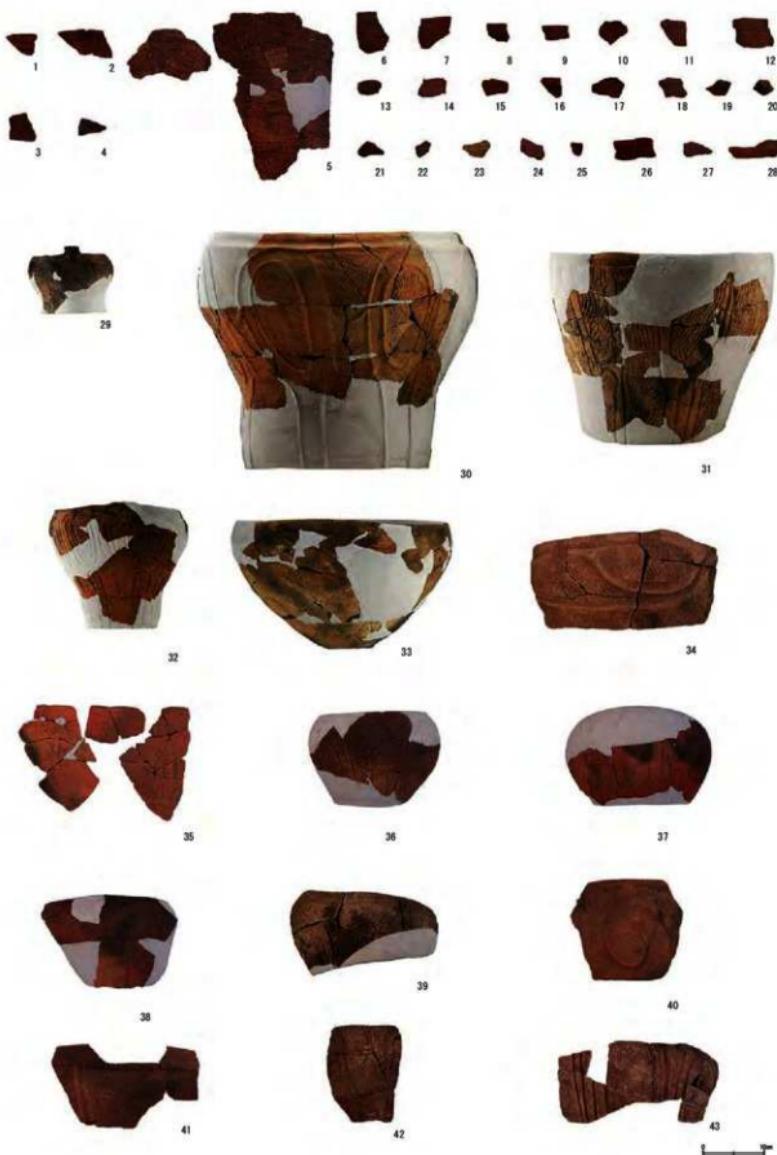


17号土坑

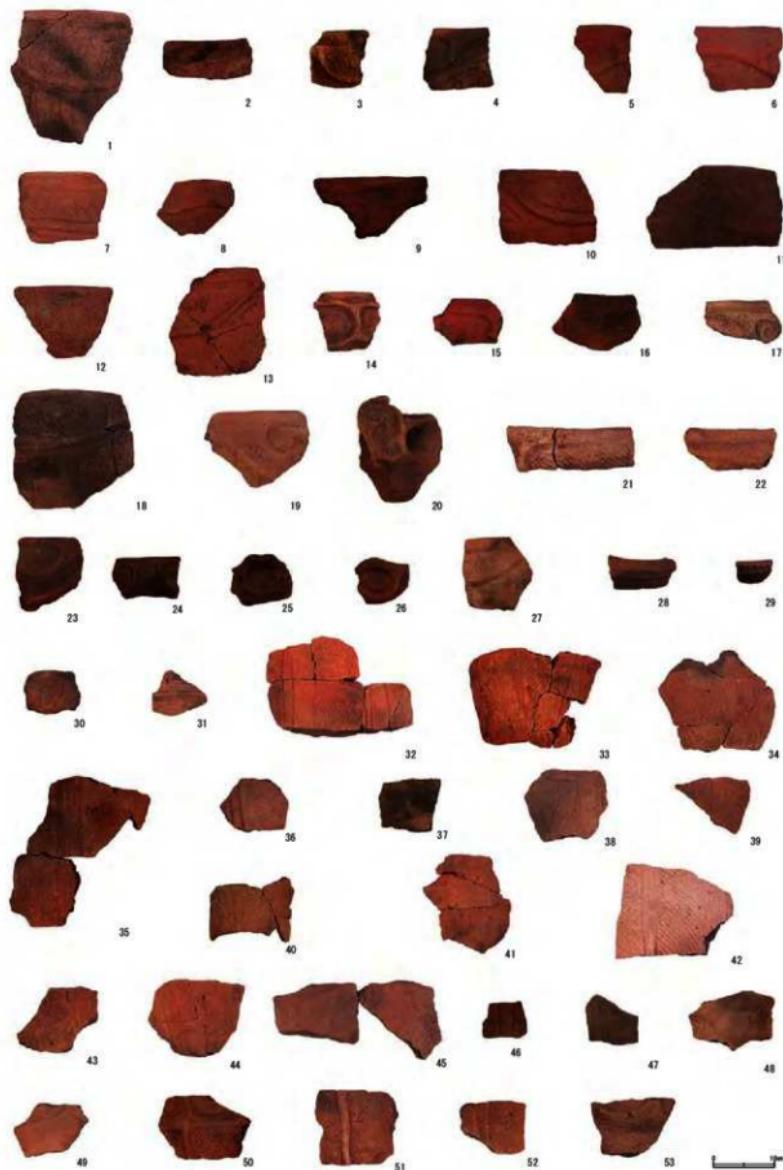


1号溝

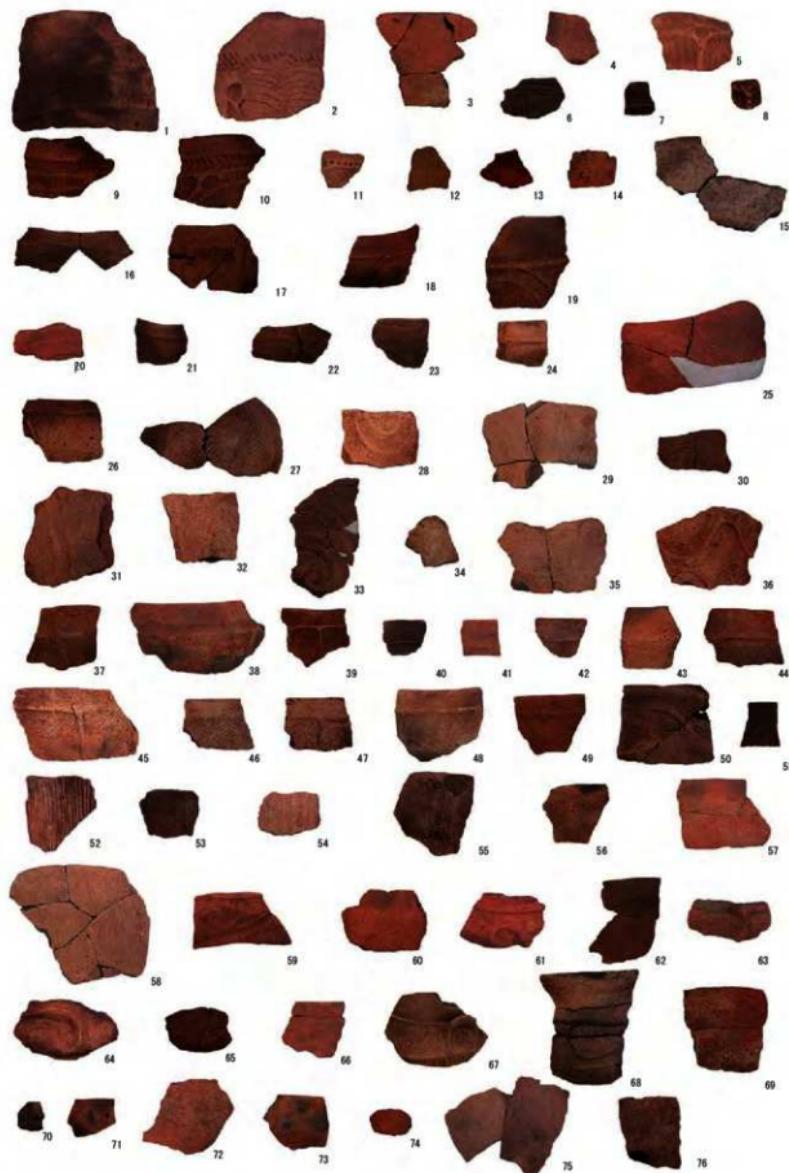
図版4 玄ノ堀遺跡（遺物）



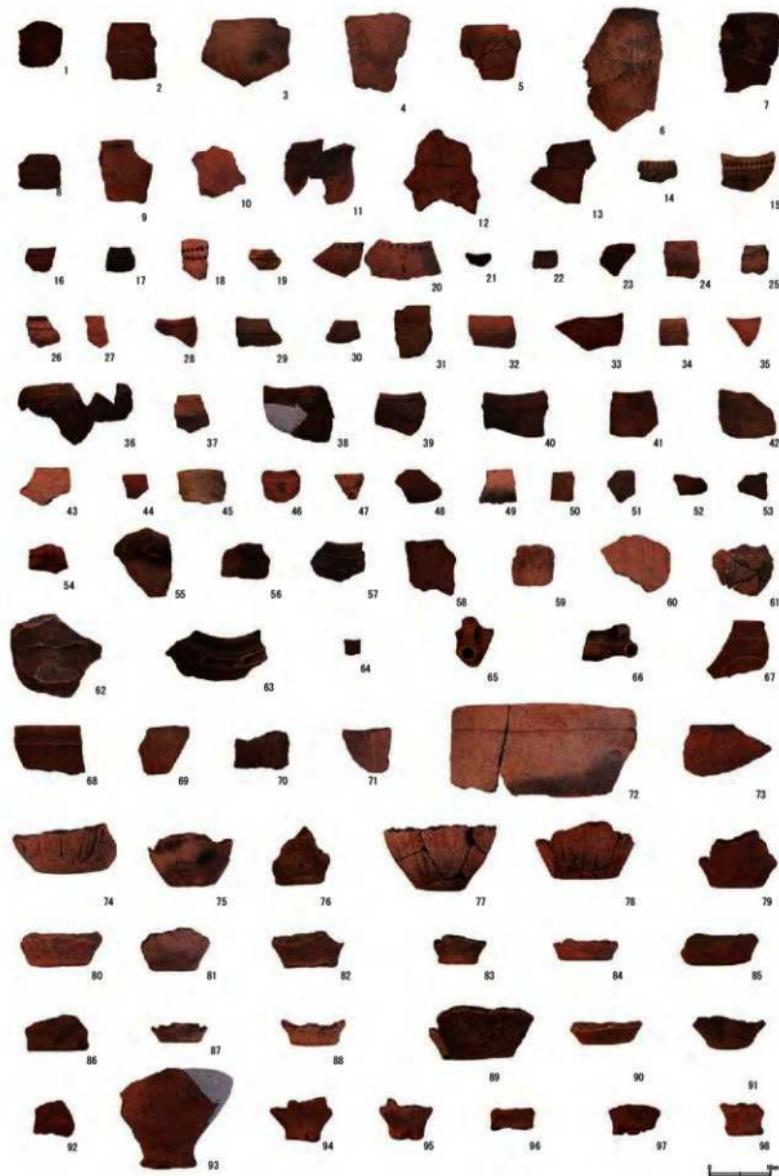
図版5 玄ノ堀遺跡（遺物）



図版6 玄ノ堀遺跡（遺物）



図版7 亥ノ堀遺跡（遺物）



図版8 亥ノ堀遺跡（遺物）



図版9 玄ノ堀遺跡（遺物）



図版10 諦光寺廃寺（遺跡）



航空写真



航空写真



航空写真



調査区全景（南から）



調査区北半



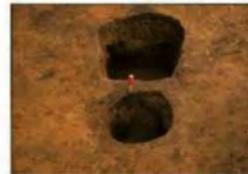
調査区全景（北から）



調査区北西隅



調査区全景（北から）



1号地下式坑（北から）

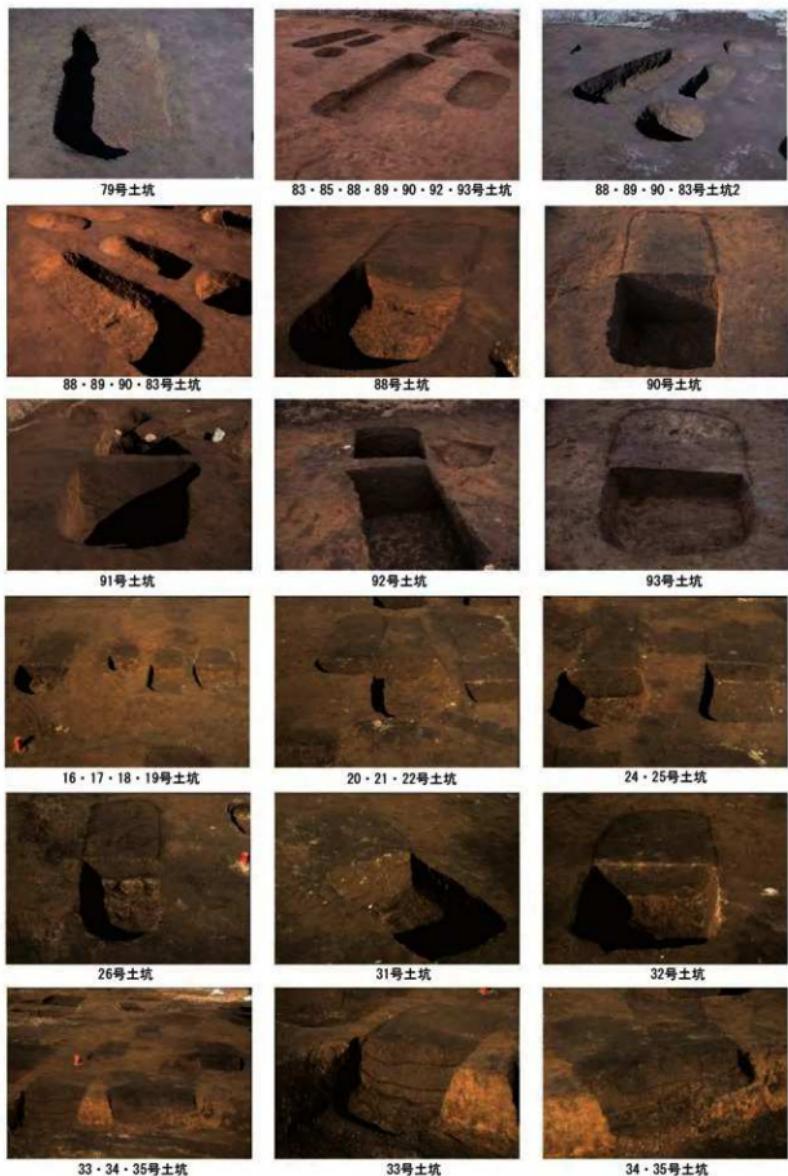


1号地下式坑（北西から）

図版11 諸光寺廃寺（遺跡）



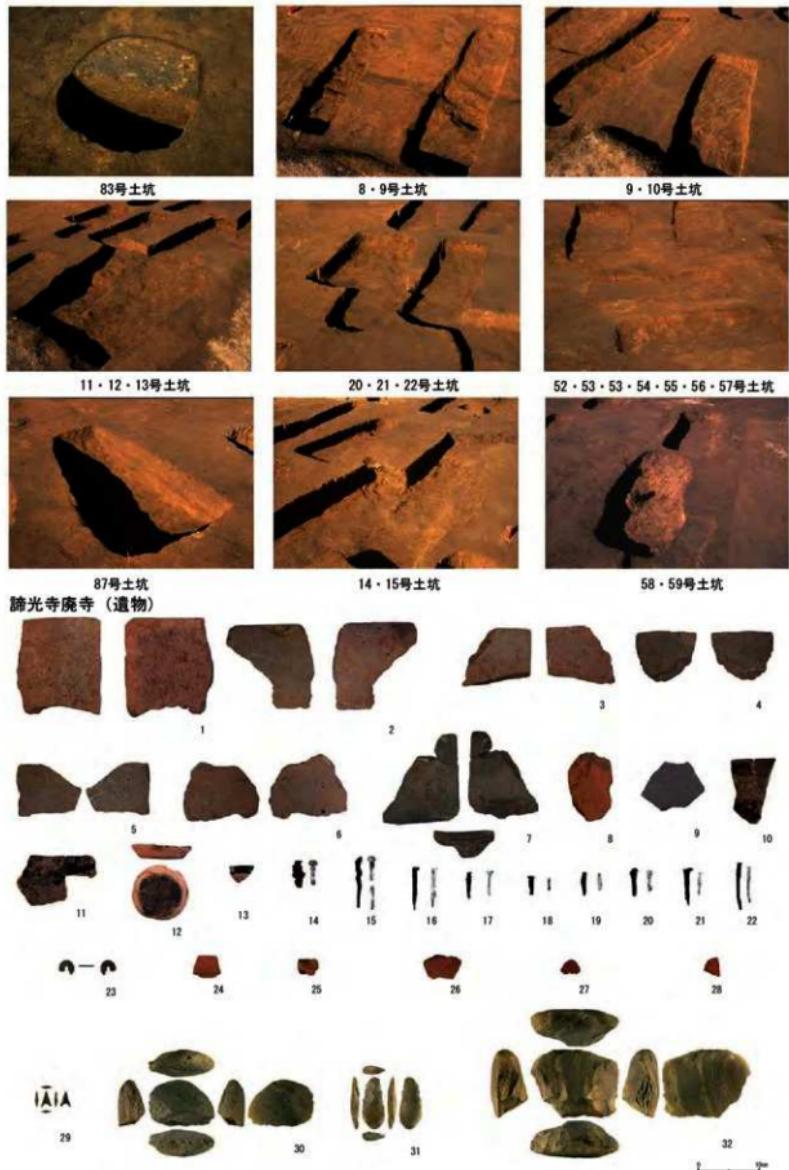
図版12 蹄光寺廃寺（遺跡）



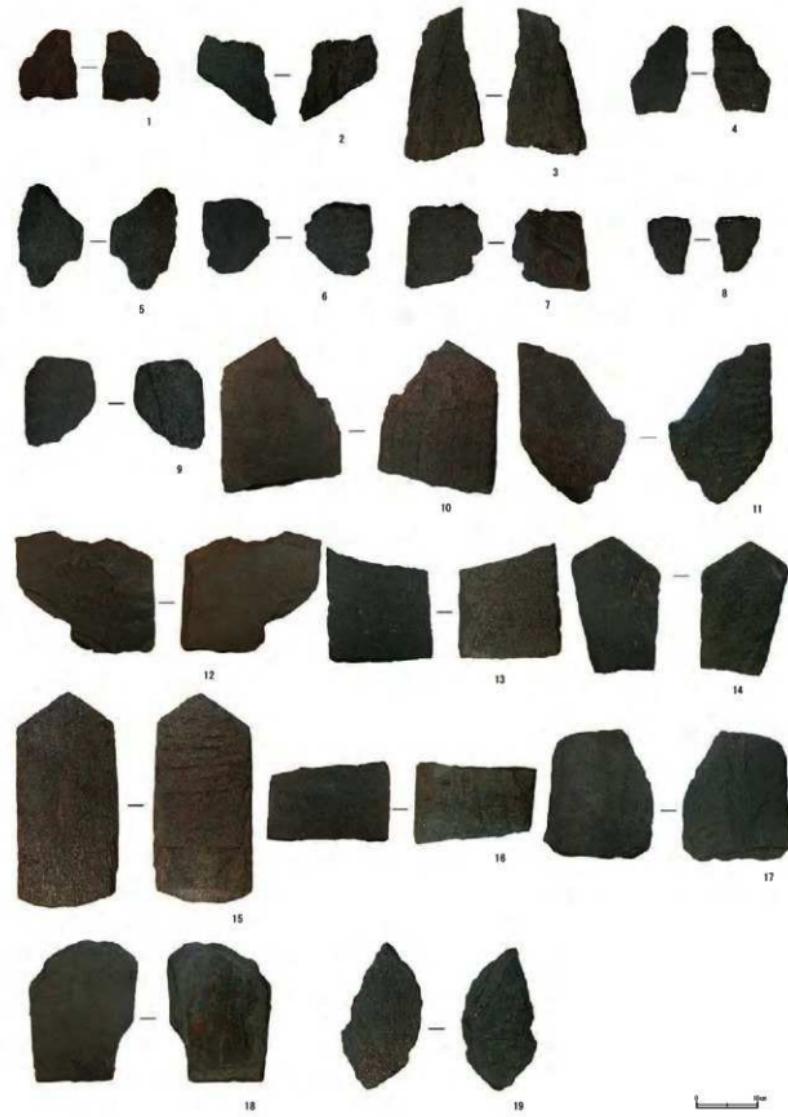
図版13 諦光寺廃寺（遺跡）



图版14 踏光寺庵寺(遗迹·遗物)



図版15 諦光寺廃寺（遺物）



図版16 鹿島遺跡5次調査(遺跡・遺物)

